

令和元年 第8回

教育委員会定例会会議録

令和元年8月8日（木）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2526号
令和元年第8回定例会

日 時 令和元年8月8日(木) 午前9時30分 開会

場 所 教育委員会室

「出席者」	教 育 長	青 木 康 平
	教育長職務代理者	田 谷 克 裕
	委 員	山 内 慶 太
	委 員	薩 田 知 子
	委 員	中 村 博

「説明のため出席した事務局職員」	教育推進部長	新 宮 弘 章
	教育長室長	村 山 正 一
	生涯学習スポーツ振興課長	木 下 典 子
	図書文化財課長	佐々木 貴 浩
	学 務 課 長	山 本 隆 司
	学校施設担当課長	伊 藤 太 一
	教育指導課長	松 田 芳 明

「欠席した事務局職員」	学校教育部長	堀 二三雄
	教育企画担当課長	加 藤 豊

「書 記」	教育総務係長	佐 京 良 江
	教育総務係	藤 田 希代美

「議題等」

日程第1 審議事項

- 1 令和2年度区立小学校使用教科書の採択について
- 2 令和2年度区立中学校使用教科書の採択について
- 3 令和2年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書(一般図書)の採択について
- 4 令和2年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書(一般図書)の採択について
- 5 港区立幼稚園教育職員の人事について(非公開)

日程第2 教育長報告事項

- 1 東京2020テストイベント(トライアスロン)開催時のお台場学園港陽中学校屋内プールの提供について

「開会」

○教育長 皆さん、おはようございます。ただいまから令和元年第8回港区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、堀学校教育部長が公務のため欠席、加藤教育企画担当課長が所用のため欠席との連絡を受けておりますので、ご承知おきください。

今回の定例会には傍聴者が多数いらっしゃいますが、会議に先立ちまして皆様をお願いを申し上げます。事前にお配りしました資料の注意事項をお読みになり、会議においては発言などをなさいませんよう、ご協力のほどお願いいたします。

報道機関の方から写真撮影及び録音の申し出がありましたので、港区教育委員会傍聴人規則第4条に基づき許可いたします。

(午前9時30分)

「会議録署名委員」

○教育長 それでは日程に入ります。本日の署名委員は、中村委員をお願いいたします。よろしくお願ひします。

○中村委員 はい、分かりました。

○教育長 まず本日の運営についてお諮りいたします。審議事項第5、議案第54号「港区立幼稚園教育職員の人事について」は、人事に関する内容のため非公開での会議とし、日程を変更して教育長報告事項の後に審議したいと思います。以上のことについて、ご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、審議事項第5については、港区教育委員会会議規則第13条第2項に基づき非公開とし、教育長報告事項の後に審議をいたします。

日程第1 審議事項

1 令和2年度区立小学校使用教科書の採択について

○教育長 日程第1、審議事項に入ります。議案第50号「令和2年度区立小学校使用教科書の採択について」審議を行います。

令和2年度から令和5年度までの区立小学校使用教科書の採択に当たり、各教育委員におきましては、東京都の調査研究資料、区の教科書選定研究委員会から提出されました教科書選定研究資料、並びに各小学校から提出されました教科書研究資料、さらに教科用図書展示会でのご意見を参考にさせていただいたと思います。本日の各教科の教科書の採択につきましては、これらの資料、意見を踏まえ採択を行ってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、最初に国語の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂では、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目標に、語彙指導や読書指導、自分の考えを形成する学習過程の重視などの点で学習内容の改善・充実を図ってい

ます。こうした学習指導要領の改訂を踏まえご意見を頂戴できればというふうに思います。いかがでしょうか。

○田谷委員 どの教科書も学習指導要領の改訂を受けた工夫をしていると思います。読むことについては、文学的な文章と説明的な文章、詩、俳句などの作品が多いのは光村図書でした。それから、書くことについて単元を多く取り上げられていますのが学校図書ではないかと思います。また、話すこと、聞くことでは、教材の数で教育出版がどの教科書に比べても充実しているのではないかと思います。

○教育長 今の田谷委員の方からは、それぞれの出版社がどの領域において力を入れているかという点でのご意見を頂戴しました。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 国語教育については、教科書にとどまるのではなくて、やはり図書館などの本、読書に広げていくということが非常に大切になる、その懸け橋としての教科書の役割というのがあるわけです。どの教科書もそういう点には力が入っているという印象を受けましたけれども、特に紹介する図書の本が多い、あるいは紹介の仕方を工夫しているという点では東京書籍とか光村図書が充実しているという印象を受けました。それぞれの単元の終わりにさまざまな本を紹介をして、読書の指導につなげるという意味が感じられました。

○教育長 ありがとうございます。

最初に私の方から申し上げた方がよかったのかもしれませんが、今、目の前にあるのは今回採択する教科書のほんの一部で、これらを全て読んでいただきまして、もう大変な時間をお使いいただきましてありがとうございます。後ほどその点について細かくご意見を頂戴できればというふうに思いますので、よろしくお願いします。

委員の皆さんそれぞれの視点から、教科書の特色について、際立つ点についてご意見を出していただくのがいいのかなというふうに思いますので、そういった視点でご意見を頂戴できればと思います。いかがでしょうか。

○薩田委員 選定資料にありますように、例えばなのですけれども、学校図書は「言葉のいずみ」や「言葉のきまり」などで、さまざまな言語指導ができるように、学習できるようになっています。語彙指導については、どの教科書でもたくさん取り上げているところではあるのですが、言葉の学習であることがひと目で分かるところはとてもよいところだと思います。またほかにも、光村図書や東京書籍も目次に言語事項の内容であることが分かりやすいように示してあって、語彙指導の改善や充実を目指しているというところが特によく分かります。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 学習指導要領の改訂の一つとして、自分の考えを形成する学習過程を重視しているということが挙げられております。光村図書の4年生の上の48ページをもし委員の先生方、見られたら見てほしいのですけれども、「アップとルーズで伝える」の学習という部分の説明的な文章が挙げられているのですが、その冒頭で、短い演習教材で学習のポイントを理解してから主教材とな

る長い説明的な文章に取り組むような工夫がなされております。学習のポイントを指導した上で主教材を読むということによって、児童が主体的に学習に取り組み、自分の考えを形成することができます。

また同じく第4学年の「ごんぎつね」の部分では、児童が親しみを持ちやすい切り絵のようなイラストが掲載されておりまして、物語文の世界をイメージさせるイラストに工夫があることも非常に印象的でした。

○教育長 ありがとうございます。「アップとルーズで伝える」という教材を理解するために、その前の前のページ、「思いやりのデザイン」を使って事前学習をして中に入るとのことですかね。

○中村委員 はい。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 学習の進め方という視点になりますけれども、東京書籍もいいと思います。発達段階に応じて学年の冒頭に「国語のノートの作り方」というコーナーを設けており、ノートの書き方のポイントを示しているというのも一つこの会社の特徴ではないかと思います。

また、教材の初めと終わりに、実際の授業をイメージさせる問いかけや学習の順序が示してあり、児童が見通しを持って学習を進めることができるのではないかというふうにも感じております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 先程、中村委員から自分の考えを形成するということへの指摘がありましたけれども、そういう工夫としては例えば光村図書の6年生の254ページと255ページ、考えを図で表そうということで、考えをつなぐ表現、それから分類する、順序を確かめる、同じ点と異なる点とを比べる、観点を挙げて比べる、五つのいわゆる思考ツールといいたいまいしょうか、文理ツール、そういうものを例として挙げながら、どう考え方をまとめていくかということを示している。こういう試みはちょっと新しい動きで、どんどん充実させていいと思いますけれども、こういう点は評価しているのではないかというふうに思いました。

それから、ちょうど今、甲子園でピッチャーの投げ過ぎの話が話題に上がっていますが、東京書籍の6年生、「インターネットの投稿を読み比べよう」ということで、72ページから、延長13回232球投げ抜いたエースということについての賛否両論を並べて、それについて議論をしていくというようなことをしています。つまり正解が一つということではなくて、自分なりにその投稿、書き込みを見ながら自分の考えをきちんと主張する。そのためには、どういうふうに自分の意見の理由を整理して説明するか、説得力を持たせるかということが大切になるので、身近な題材でそのような思考にかかわる教育をする、養うという試みとしても面白いと思って読みました。

○教育長 ありがとうございます。

思考ツールは大人になっても使えるというか、使わなければいけない方法ですので、小学校6年生からそういったものを知識として持つ、あるいはそれを使いこなすというのは非常に重要な点だ

というふうに私も思います。

ほかの視点ではいかがでしょうか。

○**薩田委員** 国語は文字を読むことがやはり大事な活動になるので、行間や改行の仕方などは各社工夫をしています。また、どの教科書も学年や教材の内容に応じたフォントを使用しているのですが、教育出版や光村図書はユニバーサルデザインフォントというのを使用しています。特に光村図書では、中学年の物語教材の文字を大きく太くするなどの工夫をしていると思います。それが特徴だなと思いました。

教育出版も読むことの単元では大きめのフォントを使用しており、児童にとっては読みやすいのではないかと思います。

○**中村委員** 国語においては書くということが自分の思いや考えを表現するという点からも大切であると考えます。書くことの学習ではどの教科書も工夫しているようですが、学校図書は書くことに関する教材の数も多く、目的や意図に応じて自分の考えや意見を書くこと、系統立てて教材を配置していると思います。

東京書籍も書くことの教材ではサンプルとなる原稿を示しており、児童が書く際のイメージを持ちやすくなっております。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**山内委員** 港区内の小学校、中学校は、俳句をつくる、あるいは俳句を味わうということもかなり熱心に取り組んでいるように思います。そういう点で、ではその俳句についてどういうふうに教科書で取り上げているかというのを見ると、例えば光村図書などを見ると、季節ごとに小さな小単元をつかって、「季節の言葉」というようなコーナーを設けて、季節に応じて俳句などで使われてきた言葉を味わう、あるいはそれを知ってまた歌づくりに、俳句づくりにつなげるというような工夫もある。こういうことも古典に親しむ第一歩として大切なことなのではないかというふうに思います。一方で論理的な思考をどう養うかということを中心にしながら、他方でそういう古典に親しむその入り口を見出すようなバランスというものも教科書を選定する上では重要なもののように思います。

○**教育長** ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○**田谷委員** 光村図書の話になるのですが、総合的な作品数が200作品を超えております。また、文学的な作品、詩、俳句の数も充実しています。特に6年生では「鳥獣戯画」、あるいは狂言などを扱い、日本の非常に伝統的な芸能の素晴らしさを学べるのではないかと考えております。

また宮沢賢治の名作である「やまなし」では、賢治の独特な世界観、そういったところから児童が物語の世界に色々さまざまにイメージしていける教材ではないかと考えております。

こうした多くの作品に触れることは、本区、港区の児童にとっては大変意義深いことだと思います。取り上げている作品の内容、数からも、光村図書が港区には適しているのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

先程、薩田委員の方からお話しいただいたユニバーサルデザインフォントについては、昨日の朝日新聞の夕刊に、字を読みやすくすることで誤読を減らそうと開発されたこのユニバーサルデザイン、UDフォントを教育現場で活用する動きが広まっているという記事がありました。この中にも、今回、2020年度から、令和2年度から使われる小学校の教科書でもUDフォントが登場するという記事もありましたので、その辺のご指摘かと思えます。

各委員の皆さんから語彙指導の視点、それから書くことの指導についての視点、さらに題材の内容や数、読みやすさ、それから俳句指導というのが港区は盛んに行われていますので、そういった実態などの観点からご意見を頂戴しました。これまでのご意見を踏まえると、光村図書を推薦する委員が多いように思いますけれども、国語につきましては光村図書でよろしいでしょうか。ご異論があればご発言いただきたいと思いますけれども、よろしいですか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、国語の教科書につきましては光村図書に決定いたします。

引き続き、書写の教科書についてご意見を頂戴します。いかがでしょうか。

○薩田委員 どの教科書も、学習指導要領に示された書写の姿勢や、筆記具、筆の持ち方、点、角や、一文字の書き方、一文などの内容を統計的に、定評的に示していると思います。光村図書と日本文教出版はアルファベットの書き順を示しているというのが印象的でした。光村図書は、5年生の巻末38ページに英語で名刺をつくるという活動を取り上げているのです。それがちょっと面白いなと思いました。

あと日本文教出版では、5年生の40ページにエアメールの書き方などを取り上げていて、私も勉強になるなと思ったのですが、国際色豊かな港区に合ったものと言えるのではないのでしょうか。例えばお友達が海外に転校されてしまって、「後で手紙書かね」なんてお友達が住所を渡してくれたりするのですが、親子でいい勉強になると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 東京書籍さんは、選定資料にあるとおり、目的に応じて使用する筆記用具を選ぶことを取り上げている教材が多いように思います。1年生の巻末に水書用紙があるのですが、何度も書くことができるので、児童が文字を書くことに親しみを持って取り組むことができる教材であると思います。これは私の経験ですけれども、私も小学校1年生になって初めて筆を持って書くときに、この水書用紙というのが非常に便利で、それで何度も書けるといのが半分面白かったのですけれども、それで結局習字が好きになって、ある程度習字の腕が上がったという経験がありますので、この教材は非常に効率的ないいものだなというふうな印象を持っております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

○山内委員 先程、薩田委員からも手紙の書き方やエメールの書き方等の話がありましたが、各社、今回は随分そういうところを丁寧により教材を用意しているという印象を持ちました。例えば国語の教科書がない3社をあえて取り上げてみると、日本文教出版は生活と書写に関するページで、原稿用紙の使い方、あるいは学級新聞などの書き方、あるいは観察記録の書き方、あるいはスピーチ原稿の書き方、学年に応じて、まず原稿用紙に升目を埋めていくと言いましょか、自分で原稿を書いていくというところについても事例を用意しながら指導をしていけるようになっているという点はよく工夫が施されているという印象を持ちました。どう日常の学校の生活と、それから書くという行為を結びつけるかという工夫が教科書にあることは心強いと思います。

それから、先程、国語は光村図書になりましたけれども、それも国語とか社会科の教材とも関連した内容があって、それは教科間をうまくつなぐという意味では工夫がされているという印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

○田谷委員 書写、毛筆の学習は小学校3年生から始まるのですけれども、教育出版は2年生で毛筆につながる学習を取り扱っております。選定資料からは、光村図書、日本文教出版も同様に2年生で、かなり最後の巻末の方のページなのですけれども、短いページなので、毛筆につながる学習を取り扱っていることが分かります。この3社については、6年生で中学校から始まる行書の書き方を取り上げているところもよいところではないかと思えます。限られた時間の中で系統的に学習を進めるという視点から、次の学年につながる内容が示されていると思えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

○薩田委員 選定委員の資料からですと、学校図書は中学年で点や角の筆づかいに重点を置いていて、高学年ではさらに字形や文字の大きさや配列に重点を置いていることがよく分かります。書き順が数字で示されていて穂先の動きが絵で分かりやすく示してあります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

○中村委員 それぞれ各社よいとは思うのですけれども、教育出版の方は小筆を使って俳句を書く学習が取り上げられており、国語の教科書のときと同じように、俳句指導に非常に活用できるのではないかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

色々な視点から、それぞれの教科書の特徴というものを挙げていただきました。そのほかの視点から、具体的にこれを推薦する、この教科書がいい、そういったご意見はありますでしょうか。

○山内委員 毛筆の指導という点で言えば、例えば光村図書は見開きで左側に手本を用意し、右側

に筆づかいを視覚的にも見やすく示している。そういうところでは使いやすい。机の上で半紙から墨汁から色々並べたところで使いやすくレイアウトがされている、使いやすさが工夫されているという印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 光村図書は書くときの姿勢や用具の持ち方のページも数多く充実しているのではないかというふうに思っております。教科書の中に書き込んで練習できるスペースもありまして、見開きでお手本を見ながら書写の練習ができるという点ではよいのではないかと思っております。

○教育長 ほかにいかがですか。

今までのご意見では、国語の授業の限られた時間数の中でこの書写をやっていくということで、しかも取り扱っている内容が、児童にとって使いやすさ、あるいは最後の点では見開きで実際に机の上にその教科書を置いて実際に書写するといった、ある意味では使い勝手というのですか、あまりいい言葉ではないのですが、子どもにとって実際に学習しやすいという点からのご意見もありました。光村図書を推薦する方が多いようにお見受けしましたけれども、書写の教科書について光村図書でよろしいでしょうか。もし異論があれば、お話しいただければと思いますけれども、よろしいですか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、書写の教科書につきましては光村図書に決定いたします。

次に社会科の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂では、公民としての資質・能力を育成することを目指し、学習内容の整備がされており、今後各学校では問題解決の学習を一層充実させる必要がありますが、社会科の教科書についてご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○田谷委員 学校の授業だけではなく、家庭で子どもたちが授業を振り返っていくときに、今回の改訂でどの教科書も基礎的・基本的な知識の習得や問題解決型の学習を充実させているだけではなく、写真や統計などの資料が適切に掲示されている印象を受けました。中でも東京書籍は、単元の終わりの「まとめる」の項が充実しており、全般的に言語活動を重視していて、考える力や表現する力を育成することにつながると考えております。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 今、お話のあった問題解決型の学習という点について比較をしてみると、例えば教育出版は学校の「この時間の問い」というところから始まって次につなげるというような形で、あるいはさらに広げるというような見出しをつくって工夫をしているという印象がありました。

それから、それについて東京書籍の方を見ると、それをもう少しもっと明確に各単元にしていて、「つかむ」、それから「調べる」、そして「まとめる」ということが、それぞれの単元で明確にされているという点は、その問題解決型の思考をつくる非常に有意義なものではないかというふう

思います。

ページによっては、例えば、今、開いてすぐに見つけたところなのですが、東京書籍の3年生の18、19ページを見ても学習の進め方というところが3年生にも非常に分かりやすく書かれています。「つかむ」というところで気づいたことや疑問に思ったことをみんなで話し合っただけで学習問題をつくらうというところがある。そしてその次「調べる」、色々な方法で調べよう。そして「まとめる」というところでは、分かったことや考えたことをまとめる。そこでまとめ方とかも書かれています。さらにそれで終わりではなくて、その後振り返ろうというところがあり、さらに「いかす」というところにつながっていく。そういうふうに、まとめて終わりではなくて、「いかす」というところまでの流れを3年生のときから繰り返し繰り返しイメージしているという点では随分工夫がされているなというふうに絵を見て思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 私は、新しい指導要領で重視されている見方、考え方の扱いも非常に重要であると考えております。教育出版は巻頭に学習の仕方や社会科の見方、考え方が太字で表されて、とてもシンプルにまとめられています。いつも振り返りながら学習を進めるということで確かな考え方が身についてくるのではないかと考えます。一方で各ページの文字量が多く、どの部分で考えさせるのか困る部分もあるのではないかと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○薩田委員 私は、新しい学習指導要領で示された地理的環境、歴史、現代社会の仕組みや働きといった内容の区分けに注目してみました。すると、東京書籍の5、6年生が分冊になっているのです。それはとても分かりやすく使いやすいと思います。6年生ですと歴史編、政治・国際編と2冊になっていまして、今教科書が重たい問題も出ていますけれども、今日はこちらで、今回はこちらというので、子どもたちも今何を勉強しているのかも分かりやすいです。でも、この2冊だと少し重たいので、1冊で済むなら多少の負担軽減にもなるのかななんて思います。

そしてまた、扱いやすいという観点で言うと、日本文教出版は児童のイラストや発言を使って気づきや疑問を明記しているのですけれども、そこは考える視点を持ちにくい児童にとっては分かりやすくとてもよいのではないかなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ここまでの意見では、東京書籍の教科書が児童の主体的な活動あるいは問題解決的な学習を取り入れているとともに内容の取り扱いに関しても充実しているという意見が多くあったというふうに思います。

そのほか、ご意見としてはいかがでしょうか。

○山内委員 東京書籍は先程申し上げたような点でもよろしいかと思えますけれども、さらに授業の進めやすさということを考えても、レイアウトもかなり工夫がされていて、大体見開きで左側の最初に調べるといふところがあり、それに対して文字の説明と図や表などの資料があるというような形で展開されている。そういう意味では授業を進める上でも使いやすいのではないかというふうに思います。

それから、先程、東京書籍の「つかむ」「調べる」「まとめる」というのがなかなかよく工夫がされているという話をしましたが、せっかくなのでほかの教科書もそういう面で論評をしておく、教育出版の6年生の社会科の教科書の一番冒頭の4ページから5ページのところは、やはり「つかむ」「調べる」「まとめる」そして「つなげる」となっていますけれども、これが閉じないで、いわゆる「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」から、また次の「つかむ」に回るというサイクルになっているというところは重要だというふうに思いました。

後程、統計教育のところでも、その思考のサイクルのことを少しお話ししようと思っていましたが、どの教科書にしてもこういうサイクルを教育の中で繰り返し繰り返し意識づけていくということは大切だと思いますし、そういうところが教科書会社それぞれの中で工夫が見られるというのが今回の社会科の特色のように思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

これまでの意見をお聞きすると、東京書籍を採択することに集約できるのかなというふうに思います。社会の教科書につきましては東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、社会の教科書につきましては東京書籍に決定いたします。

引き続き地図の教科書についてご意見を伺いたいと思います。

まず、皆様からご意見を頂戴する前に私の方から事務局に1点確認したいことがあります。まず社会科において地図帳、地図はどのように学校現場で活用されているのか質問をしたいと思います。

○教育指導課長 地図帳は主に地形や土地の利用を調べる際に活用しているものです。4年生の東京都の様子とか、5年生の日本の産業の学習などにおいては、地図だけではなくて巻末に統計資料がついていると思うのです。そういった統計資料についても学習の場で担任の方が指示して使わせているということになります。

また、地図帳というのは空間認知能力を高める上で非常に重要な教材でありますから、新しい学習指導要領では3年生から地図帳の使用をするようにということで指示が示されています。これまで以上に授業での活用が求められるものだなというふうに捉えているところでございます。

以上です。

○教育長 ただいまの教育指導課長の話も踏まえまして、教育委員の先生方からご意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 今回の指導課長のお話を伺ってしまして、帝国書院の地図の話になりますが、全編を通して鮮やかな色合いを使用し、土地の利用や地形が分かりやすくなっていると思います。土地利用図は東京書籍の14個に対して46個、用途別地図は東京書籍の25個に対して49個が掲載されており、非常に詳しいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 地図帳の活用度という観点で見ると、3年生にとっては初めての地図との出会いですので冒頭ページの扱いに注目してみました。東京書籍では鳥瞰図から始まり広い範囲へと視点を変えていくことでさまざまな気づきが期待されます。帝国書院は写真やイラストを使用して、地図の見方や使い方、基本的な知識について紹介をしています。どちらの地図帳も児童の興味関心を高め、正しい使い方が身につくのではないかと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 地図ですとか鳥瞰図とか色々比較をすると、東京書籍に比べて帝国書院の方が数多く掲載されています。それから、帝国書院は例えば32ページ、沖縄県のところを見ても、一方で鳥瞰図があり、それから土地の利用に関する記述もありというように多面的に見られる。どこの地域についてもそのような工夫がされているというように思います。

それから、地図のいわゆる標高に応じた色の使い方というのですか、それを見ても帝国書院の方が目には非常にすっきり入ってくる。これは私の主観かもしれませんが、見やすいという点では優れているように思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 3、4年生は港区や東京についてという学習をしますから、東京近郊のページについて比較してみました。東京書籍は47ページから49ページまで「首都東京」と題して東京都の特集ページが記載されています。大きくてとても見やすいのですが、特に注目すべきは港区周辺の分かりやすさです。やはり自分の住んでいる港区がよく分るととても子どもたちもうれしいのではないかと思います。地図の中心に港区があって、主な建物や交通などがとても分かりやすい印象でした。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 帝国書院の話になりますが、61、62ページで東京都の特集ページがあります。色合いがはっきりしておりまして、土地利用図、これが分かりやすいという点が特徴ではないかと思えます。また、同じく帝国書院で注目すべきは、その次の63ページから65ページの「東京都とそのまわり」という項目があるのですが、大きな地図で東京都全体の様子をつかめるだけでなく、東側と西側の地形の違いや、土地の使われ方の違いがひと目で分かるようになっております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 帝国書院の「東京都とそのまわり」を活用すれば、4年生の東京都の学習がより充実しそうだと思いました。水源林の不思議や港区との対比など、地図を利用した問題解決的な学習が展開できるのではないかと思います。

以上です。

○教育長 ほかにいかがですか。

○山内委員 巻末の資料も学習の中では多く使われますけれども、東京書籍の方が自然とか産業などの起源、それから歴史と地図、歴史のそれぞれの時代の動きを世界地図の中で示すというようなことも丁寧になされているということは大変よいと思いました。こういうことは、少し補足になりますけれども、地図帳だけで終わるのではなくて、こういうのを入り口にしながら、ぜひ学校の図書室にもっと見解を深められるように地図の教材を置いていけると、なお良いなというのをこれを読みながら思いました。例えば港区にしても、東京都にしても色々な時代の地図を図書室に並べて比較できるようにするとか、そういう工夫というのをもっと積極的にする。地図帳というのはあくまでその入り口というようなことだというふうに思います。

それから、自然災害も最近色々注目されますけれども、帝国書院はそれに関する情報も丁寧に書かれているということがあります。それから、先程ずっと港区の話が出ていましたけれども、やはり社会科で地図を見るというときには自分の住んでいないところに対しても関心を広げるということももう一つ必要なわけです。そこで、あえて違う地域がどう二つの教科書で書かれているかという例を少し紹介しながら考えたいと思いますが、例えば名古屋、愛知県というのをどういうふうに説明しているのかというのが結構面白くて、帝国書院が55ページ、それから東京書籍が42ページになりますが、いわゆる自動車産業というものがどういうふうに展開しているかというのが書かれています。帝国書院の方は、2ページまるまる使ってその自動車の部品がどういうところでどう作られているのか、部品についてもエンジン、ステアリング、シート、カーナビ、ガラス、タイヤ、電子機器等々となっています。細かく分けてそれがどういうふうに作られ、それがどういうふうにそこから運ばれていくかという物流の流れも含めて表現されているという点では、なかなかよく工夫されていると思います。

一方、東京書籍も同じような記述はありますが、ページの4分の1から5分の1ぐらいのスペースで、あまり細かく書かれているわけではなくて、物流の流れまでは意識することができないというふうに、地図を単に平面的なもので点で捉えるのではなくて、その結びつきとか流れ、物流とか人の動きとか物の動きを考えるきっかけにするということ言えば、帝国書院が例えば今の名古屋、愛知県の例のように工夫されているという印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。

地図は地図だけではなくて、それを出発点にして次の学習につなげていくということだと思います。

ほかにかがででしょうか。

○**薩田委員** 両社ともにユニバーサルデザインの観点からまた見てみました。児童が学びやすいように作成されているとは思いますが。特に帝国書院は色鮮やかなことが特徴で、土地の利用の仕方を学習するにはとてもよいなと思いました。

○**教育長** そのほかにかがででしょうか。

地図に関しては2社しかないのですが、比較がしやすいというところもありますけれども、両社とも色々工夫されている、また活用しやすい改訂がなされていると思いますけれども、これまでのご意見を伺うと帝国書院ということに意見が集約できると思います。地図の教科書については帝国書院を採択するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○**教育長** ありがとうございます。それでは、地図の教科書につきましては帝国書院に決定いたします。

次に算数の教科書についてです。今回の学習指導要領の改訂ではプログラミングが導入され、特に5年生におきましては、正多角形と円の学習でICT機器を活用した授業を行うよう学習指導要領に示されております。また、データの活用領域が新設され、統計についての学習の充実が図られております。このような学習指導要領の改訂という視点も踏まえてご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○**田谷委員** プログラミングという言葉が今、教育長から出ましたけれども、プログラミングの視点では大日本図書や学校図書が通常規定の5年生だけではなく、全学年において論理的思考力を身につけるための学習活動が示されているのが特徴的なところだと思います。啓林館におきましては、2年生以外にプログラミングの件が掲載されております。

○**教育長** プログラミングという視点からのご意見を頂戴しました。

ほかにかがででしょうか。

○**薩田委員** 日本文教出版5年生なのですが、160ページにScratchについて取り上げています。数ページにわたって丁寧にイラストもついていて、プログラムのつくり方を示してあります。分かりやすいなという印象を受けました。今、Scratchのことは子どもたちもよく話題に出ていまして、私も勉強になりました。

○**教育長** ありがとうございます。

そのほかにかがででしょうか。

○**山内委員** 各社、プログラミングについて取り上げていますが、例えば教育出版も5年生ですと228、229の2ページ、見開きでイラストを交えながら操作方法も含めて分かりやすく説明しているというような状況で、各社工夫して取り上げているという印象を受けました。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**中村委員** 東京書籍は5年生と6年生において記載してあります。特に5年生のプログラミングが1ページで見やすく示されています。あえて手順を全て記さないことで、自ら手順を考える、そ

ういう取り組み態度、それから変化させていく条件を考えることができるというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

学習指導要領の改訂では、統計についての学習の充実ということが出ておりますけれども、統計という視点ではいかがでしょうか。

○山内委員 今回、統計的な思考力を養うための単元をかなり充実をしたということで、私も専門柄かなり詳しくその部分を比較しました。従来からある部分というのは、だんだんの教科書も似通ってきて、実はあまり差がなくなってくる、面白味がないのですけれども、新しい分野はかなり教科書会社によって扱い方も違うというところがありますので、ちょっとそこは詳しく論評をせっかくなのでさせていただこうと思います。

○教育長 お願いします。

○山内委員 一つは、やはり統計的な教育で重要なのは、単に総計手法の知識を伝えるとか、あるいは分析して何かするという事だけではなく、課題に対してどういうふうにデータを集めて整理をして分析して、そして問題の解決につなげていくかという非常に能動的な姿勢をそこで伝えるということが大切になるわけです。それを、特に3年生と6年生のところでかなり差が、色々の違いが教科書によってあったので見てみたいと思いますが、実はその前に1年生でもそういう視点で工夫している会社もあります。

一つは教育出版の1年生が数を整理するというところで、アサガオの数を見やすく整理する。つまり例えば多くの学校で1年生が6月、7月にアサガオを育てる、観察をするということは昔からよくなされてきましたけれども、そのアサガオを曜日ごとにその日咲いた数だけ棒グラフ状に花のマークを積み上げていくというところがあって、それも単に積み上げるだけではなくて、その花の色もそこに分けてマークをするというふうになっています。実はこういうことを日常からするというのが、その情報を専門的には「層別」と言いますが、例えば曜日で、あるいは色でとか、そういう情報を分けることでより深く分析をすること、その層別の概念を感覚的につかむ第一歩としては非常にいい工夫だというふうに思います。

それから3年生のところ、主に東京書籍を軸にしながら論評を試みようと思いますけれども、東京書籍の特徴は単に手法をもとにして色々な題材を取り上げるというのではなくて、一つ大きなテーマを持ってその中で表現の方法などを教えていくということをしている。例えば3年生の下巻ですと、棒グラフとそれから表をまとめるということをするわけですが、その前提として学校のけがを減らすにはどうしたらいいだろうということを中心に大きなテーマにしています。そして巻末には3年生のけがの一覧表を用意していて、それをどう整理するかということをするわけですが、けがをした時間、場所と種類で整理をするということをしています。

実はそれで終わりではなくて、同じ題材を4年生で取り上げて、今度はそのグラフの軸の目盛りの設定の仕方をどうするのが適切かというのも同じ題材で組むことをしていく。あるいは月別のけがの種類でも表の工夫をどうするか。一つのテーマを通して、データをどういうふうに分析すると課題に対して解決策を出せるかという発想が途切れないようにしているという点で評価できるとい

うふうに思いました。

さらに言うと4年生では、今度全学年違うこの「けが調べ」という一覧表があるのですけれども、3年生でやったのと同じようなけがの種類別、場所別、時間別で表を作成した上で、今度はけがの場所とけがの種類の組み合わせをする、つまり二つの変数のクロス表をつくって、どういうけがだったらばどういう場所で多いか、どういう時間で多いかということを考えられる。つまり1変数だけで表にしたときには見つからなかった特徴を新たに発見することができることを工夫されているということは非常に評価できるのではないかと思います。

ほかの出版社も同じ題材を使っている、どっちかと言えば色々な題材を組み合わせる手法の説明でとどまっているというところがあったというふうには、題材によつての違いが見受けられました。

それから6年生は、データの分布を見て、平均値とか、最頻値とか、中央値とか、それからヒストグラムで集約をするというようなことをするわけです。これも単に何かをそれで知ることとで終わりにするのではなくて、能動的に考えるような姿勢をとっているのが東京書籍です。それは何かというと、各クラスおよそ15日程度、八の字跳びの練習をしている。毎日、八の字跳びで何回跳んだかという表があるのです。クラス対抗でどこが勝てるだろうかということを考えるというようなことをしている。つまり非常に身近な題材でそのデータの分布を見るという工夫がなされているというところが特徴です。

そういうことに関しては、例えばほかでも面白い工夫はあって、大日本図書は6年生の中でゲーム感覚でそのことを説明している部分があって、それはいいと思います。例えば3人が紙飛行機を10回飛ばした飛行距離の表があるわけです。その中から誰を代表選手に選ぶのがいいだろうということ。1回でも多く最高の距離を飛ばした人を出すのか、手堅く失敗をしないでコンスタントに飛ばす人を選ぶのか、そういうことを自分たちで考えるというようなことがあります。

それに対して学校図書は、どっちかと言えば分かりやすくまとめるというところにとどまっている印象だったのと、せっかくなので少し課題を申し上げると、4年生で、二つの学校の読書量に違いがあるのかなというところで、二つの学校の色々な本がどれだけ借りて読まれているかというのを表にして示して比較をさせているのですけれども、最後までその絶対数というか冊数の比較で終わっているわけです。本来、学校は生徒数が違えば絶対数の大小だけでは、どの本がどっちが多く読まれているか、傾向までは考えられない。割合についてはまだ教えてないにしても、生徒数が同じなのか違うかでは結果の見方は全然違う。そういう先の教育につなげるような視点が欠落していたというのは、そういう課題があるというふうには思うのです。かなりそういう意味では統計的な思考力という部分は会社によって今回差が出ていたという印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。

比較でこう言っていただくと非常に分かりやすく、身近な題材を利用してさらに次のステップというのですか、次の学年につなげていくという工夫もされているということですか。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 そういう、山内委員がおっしゃったことも一つかもしれませんが、私としては

分かりやすいなと思ったのが学校図書の1年生上巻の70、71ページなのですが、素材の果物の数がございます。果物ごとで大きさが大小ははっきりしていて、1年生でも容易に着目しやすく考えやすくなっているのではないかなと思います。そういうところから、何が何個、何が何個、扱っている数も10までで数えやすいところも評価できるのではないかなと思っております。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○薩田委員 東京書籍の1年生の32、33ページなのですが、分かりやすく整理しようというところは、どの教科書も色々出ているのですが、特にこの素材の魚カードが実際の形になっていて、種類ごとにさまざまな大きさになっています。子どもたちに魚とかタコ、イカの絵を描いてみようなんて言うと、大人と違ってタコとかイカは縦長の絵になってしまうのです。それを縦に並べると、イカとかは細長いですから、どんどんどんどんグラフとしては積み上げていくと高くなっているのです。でも魚は細長いので、どんなに数が多くても少ないのです。それをいかにも大人ではなく子どもが描いた絵となると、やはりそれだけでは判断が、タコやイカの方が多いななんて思ったりするのですが、そういうのを実際に、ではちゃんと分かるようにしてみようというので、グラフにしてみると冷静に違う、色を塗ってみるととても順序が分かりやすくて、先生も指導するのに分かりやすいのではないかなと思いました。

これは児童の学習意欲なども高めることができるよい教材なのではないかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 今回の特に統計的な教育で言うと、もう一つはいわゆるPPDACサイクルが紹介されているというのは一つ特徴で、私は前から海外の小学校の教材を見ながら、PPDACサイクルをきちんと丁寧に取り上げている国もあって、こういうのが入ってきたらいいなと思っていましたけれども、それをちょっと見てみたいと思います。

例えば東京書籍は6年生ですと189ページになるわけです。PPDACというのは、Problem「問題」を設定して、Plan「計画」を立てて、Data「データ」を集めて、Analysis「分析」をして、Conclusion「結論」を出す。さらにそれを次の問題につないでそのサイクルを回すということなわけなのですが、ここでもやはり会社によってその扱いが違って、例えばCのコンク作業、PPDACのConclusion「結論」のところで終わって止まっている会社と、そこからさらに課題を見つけて次のアクションにつなげていく、あるいは次のサイクルに回すというところを意識できたらいいのですが、これが教科書によって差がありました。

東京書籍は今ご紹介したようなものが5年生、6年生で出てきて、そのサイクルを回すというところが視覚的にも分かりやすくイメージされている。さらに実際にその章で扱った例を当てはめて、その流れを具体的にも理解を助けているというように思いました。また、ConclusionからProblemへ戻るというところ、次に回すというところの大切さが完結に説明されている。

例えば5年生のところだと、結論を出して終わりではなくて、この結論でよいかどうか、よりよい分析の方法はないか振り返るのですよというようなことがつけ加えられているというような具合です。

例えば大日本図書もPPDACサイクルを5年、6年で示していますけれども、ConclusionからProblemに戻るところは「さらに調べたいことはないかな」という一言にとどまっているというようなところはちょっともったいない気がしました。

それから学校図書も5年生、6年生であります。評価できると思ったのが、6年生がConclusionのところ、何が分かっただろうというところで、どんなアクションをとるかというところが示されている。つまり能動的に取り組んでいくという姿勢が出ているということで、落とし物を減らすにはどうしたらいいかという題材で、どんなものがどこに落ちているかというのを整理して、ではポスターを張るのはどこが効果的だとか、落とし物が多い場所に張るのがいいのはいいかとか、そういうアクションをそこで考えるようにしているというのは評価できるように思いました。

一方、日本文教出版は4年生からこのサイクルを、PPDACの言葉は使わないで定義を説明していて、6年生では実はこのサイクルについて漫画も使いながら9ページにわたって丁寧に説明をしているというのは私は評価できるというふうに思っています。

他方で教育出版は、そのPPDACという言葉は使わないで別の言葉でそれを説明していますけれども、単に縦に並べて終わってしまっている。つまりサイクルになっていないのです。

それから啓林館も実はサイクルになってなくて縦に並べて、調べてみて問題を決めよう、調べるときに計画を立てよう、資料を集めて分かりやすく整理しよう、気づいたことを話しよう、分かったことをまとめようで終わってしまっているという点では少し物足りない印象を受けました。

ただ、一方で啓林館は「ひろがる算数」のコーナーでは、スポーツデータアナリストを紹介して、投球の分析とか、バッターの打球がどこに飛んでいるかというのをデータで分析して次の戦略につなげる、そういう新しいデータサイエンスの動きを紹介して興味を持たせている。そういうところは評価できるなというふうに思います。

総じてPPDACのことについても東京書籍の場合、安定して記述されているという印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。PPDACサイクルという視点で比較していただきました。

それではプログラミングあるいは統計以外の視点からご意見を頂戴したいと思いますけれども、いかかでしょうか。

○薩田委員 私は、自分の考えを説明するということではノート指導も重要になってくると思います。やはりノート、自分の書いたことは一番大事だと思うのです。大日本図書では、自分の思考を残すために間違っただころに線を引いて書き加えるということを指導しています。やはり授業中でも授業の後でも間違っただころを慌てて消してしまうと、あれ、何が間違っていたのだろうと後で振り返るとやはり分からなくなってしまうたり、ちょっとした計算でも、数字がここが違っただころとい

うのが後で分かるというのがとてもよくて、ここは消してしまうのではなくて線を引こう、そして書き加えるということは、振り返りがしやすくとてもいい指導だなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 選定資料には、東京書籍が小学校スタートカリキュラムを意識していてよいという記述がありました。実際に見てみましたら、「さんすうのとびら」として1年生にA4判の別冊がついていて、発達段階に応じた工程であることや、書き込み式になっているところを見ますと、非常に使いやすいなという印象でした。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 算数ですので数直線の書き方、それからブロックでの足し算の指導など、これを比較してみますと、東京書籍や教育出版は数直線の書き方を色別にポイントを絞って丁寧に示してくれています。書き方のページも、覚えて数直線を使いこなせるとさらに理解が深まりそうです。

また、学校研究資料では、公式の平易な記述やレイアウトなどは東京書籍が見やすいという意見も多いように思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 今、色々ご意見出ましたけれども、教科書によってはノートの書き方、それを繰り返しその巻の頭で説明しているというものもある。先程の薩田委員のご指摘もそうですし、例えば啓林館も同じように、分かっていることを書く、間違えても消さないようにする、あるいは振り返るといったようなことが最初に書かれています。

東京書籍もノートの工夫、間違えたところは消しゴムを使わないで二重線で消すようにしてますとか、色々な工夫、それぞれの工夫を書いて、これが適切ですということではなくて、誰々さんの工夫という形で書かれていて、みんなそれぞれの工夫をさらに積み上げていきましょうという意図だと思いますけれども、そういう工夫がなされているのもよいことだなと思いました。

あとは学習の感想といいたいでしょうか、その書き方でも、見方、考え方という視点が提示されているというのも特色であるというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

さまざまな意見をいただきました、ありがとうございます。

統計学習、山内委員の方からPPDACサイクルの部分の色々比較検討していただいたご意見を頂戴しまして、統計の学習あるいは問題解決のプロセスなどの多様な視点から東京書籍の教科書が子どもにとって分かりやすいといった意見が多かったように思います。算数の教科書につきましては東京書籍ということでもよろしいでしょうか。よろしいですか。

(異議なし)

○教育長 異論があれば言っていただければと思いますが、よろしいですか。ありがとうございます。それでは、算数の教科書につきましては東京書籍に決定いたします。

それではここで教科書の入れかえがありますので、座ってお待ちください。

よろしいですか。

それでは、次に理科の教科書についてです。今回の学習指導要領の改訂では、観察や実験を通じて児童が考察した結果から結論を導き出していく問題解決の活動を充実させているほか、理科を学ぶことに意義を感じ理科への関心を高めて、日常生活や社会とのつながりを持たせるという点が改訂の中に入っております。それでは、これらを踏まえましてご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○田谷委員 まず最初に申し上げておきたいのですが、港区では理科の学力向上が特に課題となっております。理科に関心を持って楽しく学習に取り組めるように、港区に合った教科書をぜひとも引き続き採択していきたいと思っております。

そこでちょっと教科書の件と離れるのですが、港区で使用する教科書を採択するための理由の一つになるのではないかと考えているのですが、来年4月に開設される予定のみなと科学館にはどのような特徴があるのでしょうか。ご説明をお願いいたします。

○教育長 よろしいですか。

○教育指導課長 田谷委員のお話のとおり理科の学力向上という点では、全区的なのですけれども、天文分野と気象分野が達成率といいますか、習熟率が低いというのが課題なのです。港区も同じような課題があります。今現在、令和2年の4月に開館できるように、みなと科学館の準備を進めておりますけれども、その科学館は虎ノ門三丁目ということで、気象庁との合築庁舎になっております。その合同庁舎の中、1、2階にみなと科学館ということで科学館を入れます。その中には広く一般の方々も利用できるように体験学習センター的な機能を持たせて、実際にさまざまな常設展示物ですとかプラネタリウム、さらに実験室を用意してございます。

そういった科学館ですので、区内の全ての子どもたち、公立の学校の子たちだけではなくて私立のお子さんたちも利用できるようなさまざまな工夫をしながら多くの方が利用できるようにして、特にプラネタリウムがありますから天文分野の学習などの際にも利用していただこうと思っておりますし、合同庁舎になります気象庁の方では、実は今現在、大手町にありますけれども、気象科学館も一緒に同じ時期に移設されてオープンするというので、そこを訪れた子どもたちが気象ですとか天文ですとか、またはその実験室を使った、普段学校ではやらないような実験もできるような、そういった施設にしていこうというふうに考えております。

以上です。

○教育長 そういう意味では、このみなと科学館というのは実際に理科教育において非常に有用な施設になるのかなというふうに思います。

それではご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○中村委員 今の松田課長の方からご説明があった視点等で考えますと、東京書籍さんの4年生の教科書の巻末に夏の大三角形が分かる星座シートを付録に載せております。このような教材を活用しながら港区の夜空では見えづらい星座を実際に写真で見えて理解することは大切であり、みなと科学館で体験できるプラネタリウムにも関心を高める学習になっていくと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 今お話があったように星座についても、例えば東京書籍あるいは教育出版などが工夫がされていますけれども、もう一つ、例えば雲というものも面白い例なので見てみたいと思います。やはり身近な現象で、しかも日々変化するものについて目を向けて観察をして、そこから例えば天気を予想したりというような思考につなげる、あるいは自然に関心を持ち天気の予想につなげていくというようなことは非常に重要な入り口だと思います。しかも日本は雲の言葉についても非常に豊富な言葉が昔からあって、そういう細かい変化を繊細に見極めるところを授業の中で伝えていくことができるわけです。

そういう点で見ると、例えば教育出版は本文の中でも雲と天気の関係について観察をし、天気の変化に雲の動きがどう関係しているだろうと色々考えるというところをさせていますけれども、さらに巻末に、例えば5年生の教科書ですけれども222、223ページのところで雲について色々な雲の種類、いわゆる専門用語としての雲の言葉、それから日本古来の雲の言葉、両方あわせて記述をしているというようなところもよいのではないかなと思って読みました。

雲の観察ということで言えば、啓林館も巻末のところにカードをつけていて、いわゆる専門用語、例えば高積雲ですとか、それから日本の古来の言葉、例えばひつじ雲とかを解説をつけて分かりやすく書いてある。こういうような工夫は、日常生活の中で観察力を研ぎ澄ませるというところにつながるいい試みであるというふうに思いながら読みました。

○教育長 ありがとうございます。

みなと科学館ということで、プラネタリウムに関して中村委員の方から、それから気象庁が併設されるということで、その視点、雲について山内委員からご意見を頂戴しました。

そのほかの視点ではいかがでしょうか。

○薩田委員 啓林館ですと、ページの左側に矢印で問題を解決していく学習の流れが表してあります。教師も児童も見通しが持ちやすい構成なのではないかなと思います。また、単元末の活用の問題では身近なことが色々こう書いてありまして、それを科学的な視点に結びつけて考えてみようということが書いてあります。児童の考える力をつけさせるのにはとても役立つものではないかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○山内委員 理科の教科書についても、どの教科書もいわゆる問題解決的な流れを生徒が体験でき

るように編集されているということ、それから写真とか資料も豊富に取り上げている、対話的に授業を展開できるという工夫がなされているというのがまず率直な全体的な印象としてあります。

その上で、例えば教育出版について見ると、最初に理科の学び方について、その思考の流れを分かりやすく示している。例えば5年生でいうと、8ページ、9ページのところで、「さがしてみよう」というのがあり、さらにその前に7ページで、特に比べる言葉、関係づけるとか、見通しを持つとか、そういう表現も説明しながら考え方を誘導して、まず最初に示しているというような工夫もある。それから、もう少し具体的なところで言うと、教育出版はデータをとって、そしてそれをグラフの上にプロットするというところが比較的多くそれぞれの単元で取り上げられているというところは評価できると思いました。

例えば、5年生の161ページから164ページぐらいのところですけども、コイルの巻く数によって電磁石が何個クリップを引き付けるかということを実験させる。そしてそれをグラフにプロットをするというようなことをし、そして結果のばらつきについては平均をとるというような流れも非常に分かりやすく書かれているというふうに思いました。

それから教育出版で一番いいと思ったのは、実は3年生の62ページの題材です。これは何かというと、ゴムの力について考えるという單元なのですけれども、まずいわゆるゴムで引っ張って離すとどれだけ進むかという、そういうゴム動力の車をつくって実験をさせるわけです。ゴムの伸ばした距離によってどれだけゴム車が移動するかということデータをとりプロットをするということもまず丁寧にします。そしてさらに、それで終わりではなくて、63ページに次に最後の仕上げのゲームになっていく。それは何かというと、狙ったところにゴム車を止める、つまりゴム車の移動距離のばらつきは何で決まるのか、それはゴムの伸ばす長さによって違う。それをデータをとった上で、今度は狙った移動距離にぴったり止めるためにはどれだけ引っ張って離せばいいのか。そういう非常にいいゲームにつくられている。単に一番長く行くゴム車をつくろうというのではなくて、狙ったところに止まるゴム車をつくろう、そういうゲームがある。こういう非常に論理的な思考力、データをもとにして思考して、ゲームの中で能動的に体感できるという点では非常にいい題材を取り上げられているというふうに思って、特にこれについてはご紹介したいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 東京書籍さんは、友達と対話をしながら主体的に問題を解決する活動を通して問題解決の力を身につけていく、非常に子どもにとっては分かりやすい構成になっています。

また、6年生の教科書の巻末には飛び出る人体模型など、体の中のつくりを立体的に学習でき、子どもにとって興味関心を抱かせ、具体的な教材で考えることができるように工夫されているなど思いました。理科を学習していく上では大切な要素であると思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 色々ご意見あるのですけれども、学校図書は、学習効果を高めることができるよう、巻頭や単元冒頭で身につけたい力を明確に示し、子どもが各場面で考えたり考察したりするときの視点を意識しやすい紙面構成と言えらると思います。

また、単元の終わりに単元で学習した知識や技能を整理する一種のまとめがあり、思考力を育てられるのではないのでしょうか。

一方、大日本図書は学習の流れを三つに色分けし、繰り返すことで問題を解決する力が身につくように工夫されています。また、友達と話し合う場面が多く掲載されており、子ども同士がどのように話し合っていけば良い見通しを持って学習を進めることができるかというような進行になっていくと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 人体のことについても少し、先程中村委員からもありましたので、私からもコメントをしたいと思います。

教育出版については6年生の、生きていくための体の仕組みというのが48ページからありますけれども、そこでまず50ページのところに、人の中の体の様子というものが前面と背面から非常に大きく、大きさもイメージしやすいような形で書かれているのも一つの工夫だと思います。それから、血液の循環というものと呼吸との関係など、比較的分かりやすく書かれているのが教育出版で、さらにそこで評価できるのは、54ページに人の体、血液の循環の総括がある。さらにその隣の55ページに、他の動物ではどうだろうということで、キリンと熊の血液の循環について、分かりやすく書かれています。さらにそれに呼吸とか消化の吸収がどうかなどということも分かりやすく書かれています。こういうふうには、人間だけで終わらないで他の動物と比較をして、共通する部分、それから異なる部分というものを考えられるようにというのはよい工夫ではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

理科においては、色々な実験等があるのですけれども、観察あるいは実験の際の安全指導面での配慮という点では各教科書いかがでしょうか。

○薩田委員 そもそも子どもは、何でそんなことするのというぐらい危ないこと、危険なことというのをしてしまうような気がするのです。実際そうだと思うのですけれども、先生方も注意は色々してくれてはいると思います。毎回毎回、厳しく。教科書、教科書ガイドともに「危険」ですとか「注意」というところで分かりやすく工夫はされていると思います。

特に教育出版なのですが、裏表紙にその該当学年で学ぶ内容に即した「安全の手引き」というのがその一番後ろに出ています。それが明確に掲載されていて、子どもにとってもひと目で分かりやすい表記になっていると思います。みなと科学館の視点でもあったのですけれども、星座の早見版などのこういう巻末の付録がついているのも面白くてとてもいいと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 今の、観察・実験の際の安全指導面という観点を教員の側から見てみますと、やはり若手の教員にとっても、危険事項を把握し、子どもにより丁寧な内容で教えることが重要であるというふうに思っております。その点で考えるとバランスよくできているのは教育出版が活用しやすいのではないかなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

各委員の方から、みなと科学館の視点、それから問題解決学習の視点、安全指導の視点等、色々ご意見いただきました。これまでのご意見から教育出版を推薦する委員が多いように受け止めましたけれども、理科につきましても教育出版でよろしいでしょうか。ご異論があれば言っていただければと思いますけれども、よろしいですか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。理科の教科書につきましても教育出版に決定いたします。

次に生活科の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂のポイントとしては、小学校低学年における各教科等における学習との関係性、幼児教育とのつながり、中学年以降の学習とのつながりを踏まえ、体験的な学習を通して育成する資質・能力が具体的になるよう改善することが改めて掲げられております。このことを踏まえまして、ご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○中村委員 小学校低学年における各教科等における学習との関連性という点を重視する視点から見ますと、どの教科書も国語や算数、図工と関連できる指導内容が記されているなど感じました。中学年以降の学習とのつながりを重視する視点から見ると、7社とも意識して編集がされているのではないかと思います。特に教育出版は、下巻の教科書の51ページの「理科へのまど」というコーナーや、29ページにあります「社会へのまど」コーナーのような児童の気づきから3年生以降の理科や社会へのつながりを意識しているなど特に感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 幼児教育とのつながりを重視するという点から見ると、どの教科書も上巻の巻頭に、スタートカリキュラムというのがあります。それは特に意識したページが設けられていて、東京書籍、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版、たくさんあるのですが、児童が入学して小学校生活への見通しを持たせるだけでなく、保護者への啓発というページも設けていました。

○教育長 学習指導要領の改訂のポイントの視点からご意見をいただきましたけれども、ほかの視点からではどうでしょうか。

○山内委員 生活科の場合にはできるだけ身近なところで直接的な体験をして、そこから学習活動

につないでいくということが一つ大切になる。これは社会科的な視点でもそうですし、理科的な視点でもそうなのわけですが、港区という地域の各学校がうまく身近な題材で生き物あるいは植物、あるいは夏の探検という中で、それが生かせるような教科書、それがどれだというような目で実は見ていました。そういうところからも絞っていけばいいなというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○中村委員 生き物の単元のところを注目すると、啓林館の下巻50ページで、モルモット、アゲハチョウ、オタマジャクシ、ダンゴムシなどを取り上げていて、ヤゴを捕まえて実際に飼うという構成になっております。

港区は都会とはいえども多くの自然があります。有栖川記念公園や自然教育園などで捕まえてきて育てることもできるのではないかなと思います。特に命の大切さについてあえて触れている点もいいなと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○田谷委員 大日本図書の下巻の34、35ページも、ダンゴムシ、ヤゴ、カタツムリなどを捕まえて実際に飼育してみようという構成になっております。今、中村委員の言われたように、区内でも十分こういうものを捕まえることはできるのではないかなというふうに思っております。

その反面、ザリガニについてなのですが、今ザリガニは教材として購入することもできる、もちろん捕まえることもできるのですけれども、港区の実態に合っているのかと思う一方、東京書籍と教育出版では外来種のアメリカザリガニの取り扱い方について注意喚起がなされていました。日本の生態系を維持するためには大事な視点であるというふうに思いました。最後まで長く飼ってあげましようというようなコメントが入っていたところはよかったと思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがですか。

○中村委員 学校図書の教科書の中には、エンマコウロギ、ショウジョウバッタ、オタマジャクシを実際に飼育して、その後自然に帰す構成になっています。むやみに捕まえるだけではなくて、学習したら自然に帰すということについても学習することで命の大切さについても感じる事ができるのではないのでしょうか。

また、育てた際の観察日記が具体的に掲載されています。これは、どのような点に気をつけて育てていくことが大切か児童自身に考えさせるだけではなく、振り返りの重要性についても理解させることができるのではないかと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○薩田委員 どの教科書も昆虫を探しに行く際に、今テレビやニュースなどでもだいぶ話題に出て

いますけれども、チャドクガですとか、セアカゴケグモ、スズメバチ、マムシはどうなのですかね、マムシに遭うことがあるかは分からないですが、気をつけなければならない生き物について触れています。港区にも自然が、芝公園や有栖川記念公園のようにたくさんありますので、子どもたちが遊ぶ機会がたくさんあります。注意喚起の視点ではとてもよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○山内委員 私は、3年の理科にどうつながるかという視点からの意見になるのですが、教育出版は比較的それが意識されているように見えて、例えば昆虫についても、頭と胸と腹、そういうような昆虫の構造について目を向けさせるということもしています。

それから、さっきゴムで引っ張る車のゲームの話をしましたけれども、下巻の84ページで「作って試そう」というところで、ゴムを使って動くおもちゃをつくるというようなこともそこにある。ゴムとか風で動かすのですね。そういう工夫をしながら車をつくっていく。そういうような題材も3年につながるといふふうに思います。

それから、さっき光村で国語の教科書で思考ツールの話をちょっとしましたけれども、ちょうど教育出版の121ページ下巻になると、例えばシオカラトンボのヤゴを育てるという題材でつかんだことを丁寧に、育てる場所は、住みかは、育てたその期間、そういうものをマッチングしていくというような、あるいは町探検で見つけたことを整理するというようなことも、いわゆる思考ツールとして丁寧に具体的に紹介されている。そういう工夫があるというのが教育出版だと思います。

一方で、例えば身近な昆虫に目を向けるというときに、例えば脱皮一つとっても、トンボとかチョウとか、比較的分かりやすい、そしてみんな子どもが飛びついて見るものがあるわけですが、それだけではなくて、普段うっかりすると見落とすような生き物について目を向けさせようという配慮がある教科書もあります。

例えば光村図書は、生活の下巻の42ページのところに、よく見ると面白いよというテーマで、ダンゴムシがどういうふうに動くか、それに目を向け、そして脱皮の写真も出てくるというわけです。それがあって次にチョウとかザリガニが出てくるという具合で、うっかりすると見落とすかもしれないダンゴムシを丁寧に見るというような入り方というのは、なかなかよろしいのではというふうに思いました。

啓林館でもトンボだけでなくダンゴムシの脱皮などを取り上げています。

○教育長 ありがとうございます。

今、生き物の学習についてご意見を多くいただきましたけれども、そのほかの視点からいかがでしょうか。

○薩田委員 港区の特性という意味で言いますと、大日本図書では外国の遊びなどを紹介しています。巻末に「がくしゅうどうぐばこ」というコーナーを設け、さまざまな資料が提示してあります。とても分かりやすいと思います。その中で「せかいのなかま」では、外国の遊びや代表的な食べ物などがあって、国際科などでも活用できるのではないかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 私は地域柄というのですか、港区内でも白金地区の方に住んでいるのですが、いまだに結構町工場があるのです。そうすると地元の小学校の先生から、3年生の授業で町探検というのがあるので、ぜひともその町工場を紹介してくれないかということがありまして、町工場を紹介するというようなことをやったことが過去にございます。そういう中で、この社会科の教科書の町探検ということについて、各社、その部分だけをピックアップして、よく見てみました。

各社とも下巻に出ているのですが、特色があるのは、まちへの愛着を持たせる展開というのがあります。これは東京書籍、大日本図書、学校図書、日本文教出版、4社がそういう印象を受けました。振り返りを重視しながら展開していくのが啓林館の1社。社会科への学習へのつながりを意識した、社会科へつなげていけるような、これが教育出版の1社。総合的な学習の時間へのつながりを意識した展開なのが光村図書の1社というような状況で、それぞれ会社ごとによって特徴があるのが面白いなと思いました。

○教育長 それぞれの視点でちょっと今、紹介していただきました。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 まちへの愛着を持たせるという視点では、とても大事なことだと思います。そのような町探検の展開学習になっている。子どももよく「今日は町探検行くんだ」みたいなすごく楽しみにして行くのですけれども、東京書籍、大日本図書、学校図書、日本文教出版の4社の中で、私は東京書籍が港区の実態により合っているのではないかなという印象を持ちました。港区には図書館などがたくさんあり、施設も色々たくさんあり、商店街もまだまだたくさんあります。活動するには東京書籍の教科書が参考になるかと思いました。

また、町探検の活動をスモールステップで進ませるために四つの構成に分けているのです。下巻に、81ページからの「つながる広がるわたしの生活」という学習の場面があるのですが、そこでは児童が実際に町探検をして得た気づきや発見をもとに私たちのまちを大切にする、そういう心を育成できる展開になっていると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 今、薩田委員がおっしゃったとおり、まちへの愛着を持たせるという意味では東京書籍もいいなと思ったのですが、中をもう少し詳しく見ると農家の様子などが多く写真等で載っておりまして、港区の実態に合っているのかなとちょっと疑問に思いました。

私は町探検の活動を2単元に分けて学習することを明確に示している日本文教出版がいいなと思いました。こうした構成はベテラン教員から経験年数の浅い若い教員に至るまで全ての教員に分かりやすい学習展開になっていると感じたからです。

また、都市部での活動シーンが多く、児童にとっても身近に感じやすいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 私は、薩田委員と中村委員のご意見をお伺いしまして、東京書籍か日本文教出版、このよさについてはよく分かりました。ただ、私はこの2社に加えて光村図書もいいなと思っております。町探検の最後に、児童が町の大好きなところを自慢するだけでなく、これから大好きな町のあり方についても考えていくというところがあるのです。こういう展開は、これからの児童にとって大切な視点になるのではないかというふうに思っております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○山内委員 町探検の単元の比較をすると、各社、どうまちに愛着を持たせるかというだけではなくて、何を見つけてくるかとかを用意していますけれども、やはり自分の身近なまちをまずは素朴な目でじっくり観察をして、そしてみんなそれぞれがどんな発見をしたか、そしてまたそれぞれがどんなところを気に入っているかというのを紹介し合うということ、これによってある意味で多面的にものを見るということも実感すること、あるいはそれによってまた新たな発見に会えるということも実感することができるわけです。そういう点では、例えばあまりに写真が多いと逆に誘導的になり過ぎて想像力をそがれる。あるいは割にその具体的な議論の例を多くし過ぎるとまたそれ同様で、でも他方でどういうふうに伝えたらいいかの方法とかも示すことで具体的な議論もしやすくなるという面もありますから、そのバランスをどうとるかということも実はこの生活の教科書を選ぶときの難しさかなというふうに思いながら見てました。

そういう中で言えば比較的光村図書が、まずは素朴に、あまり誘導的にならないで、一人ひとりが自分のまちを、その見たものを紹介し合うところから始まるという流れというのは悪くないのではないかというように思っています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 今の田谷委員と山内委員の考えを伺いまして、3年生以降に学習する総合的な学習の時間に通じるものがあるかという点から考えると、光村図書の教科書はその点では確かに優れているのかなというふうに思いました。

個人的には日本文教出版もいいなどは思っているのですが、そういう印象を今、田谷委員と山内委員の意見を聞いて感想としては思いました。

以上です。

○薩田委員 個人的には、私はこの東京書籍の最初の学校生活スタートの黄色い帽子で子どもたちがいるこの写真とか見ると、普段よく見ている姿だと思います。個人的には東京書籍もいいなと思いました。

○教育長 ほかにいかがですか。

○田谷委員 先程、町探検という話をしましたが、光村図書の場合は全ての活動においてホップ・

ステップ・ジャンプと学習の流れを分かりやすく示していると思います。児童にとっても、また教員にとっても学習しやすい展開になっているというふうに感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○山内委員 先程申し上げたこととも重なりますけれども、写真の選び方とかイラストの使い方を見ると、光村図書の場合には、あまりに限定的にならないで、あるいは誘導的にならないでというバランスをとりながらつくられているという印象があります。そういう意味では生活科という科目の趣旨、ある意味でそこで3年生以降の学習の準備をしていくということ、理科や社会につながる準備を、あるいは総合的な学習への準備にもなるということを考えて、そういう説明的過ぎない教科書というのは悪くないなというふうに思っています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。よろしいですか。

選定資料等をもとに、港区の環境に適している教科書ということで色々意見をこれまでもいただきました。光村図書が港区の実態に合っているという意見が多かったように思いますけれども、あわせて薩田委員は東京書籍もいいかなと、あるいは中村委員は日本文教出版もいいかなということなのですが、いかがですか。光村図書でよろしいですか。特にお2人はいかがですか。

○薩田委員 そうですね、どれも本当にいいと思うのですが、なじみやすさ、受け入れやすさからすると、全体的な印象としては光村図書もいいかなと。ちょっと受け入れやすそうな感じではあるかなとは思っています。

○教育長 ありがとうございます。

中村委員はいかがですか。

○中村委員 教える教員の側からの使いやすさ等を考えると、よけいな情報が少ない、あるいはイラストが多い、教員が各学校の実態に合わせて教えられるのかなというところを考えるとやはり光村さんの方がいいのかなとは思っていますので、そういう点では光村でもいいとします。

○教育長 分かりました。

それでは、生活科につきましては光村図書の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、生活科の教科書につきましては光村図書に決定いたします。

次に音楽の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂のポイントとして、表現及び鑑賞の学習を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指すということが改めて掲げられております。このことを踏まえまして、ご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○山内委員 音楽については二つの出版社、教育芸術社と教育出版、いずれも歌と曲とのバランスを工夫しながらつくられているという印象を持っています。なかなかこの楽曲、曲の選び方という

のは悩ましいところで、私は個人的には、長く親しまれてきたよい楽曲をもっとたくさん取り上げてくれればよいなというふうには思って、最近少し時代に迎合するという印象を持ってはいるのですけれども、それは今後に期待をすることにして、比較的どちらも工夫はされている、表現とか合唱の教材も、作品数で見ても大体両方同じぐらいの取り扱いとなっているという状況です。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 なかなか楽曲の問題は難しいというふうに思います。子どもの興味をそそろうとするとテレビで聞きなじみのあるような曲になってしまうのでしょうし、ただ、やはり歴史とかそういうことを考えるとクラシックですかね。私はそちらの方がどちらかというと好きなのですが、色々な音楽的な見方、考え方を子どもたちに働かせるという点でも、この両社ともに内容が充実しているというふうに感じております。

教育出版から話をしますと、児童が主体的に学習内容を捉え、思考、判断、表現等をしながら見通しを持って学習できるように、全学年の教科書に「まなびナビ」のコーナーを、3年生以上の教科書にはさらに「学びのプロセス」のコーナーを設けていて、学び方について示している点がございました。

また、教育芸術社では学習を進めるキャラクター、それから発見的な学習を促すキャラクターを設定しています。これらのキャラクターを目次で紹介するとともに、本文中においてはこれらのキャラクターや子どものイラストから児童の気づきを促したり、体系的な学習を充実させたりする学習のヒントのお言葉を示しているところがよいところだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 どちらの教科書にも言えることなのですが、巻頭の有名人からのメッセージは、児童の音楽に対する興味、関心を引き出す役割というのを果たしていると思います。また、どちらの教科書とも図や写真を数多く取り入れていて、分かりやすく編集されているなど感じました。

特に教育出版は観音開きの大きな写真が印象的で、児童の心をぐっとつかむのではないのでしょうか。

また、教育芸術社は、国歌についてなのですが、児童になじみのあるスポーツ選手、1年生が2016年のリオデジャネイロオリンピックの体操日本代表、2年生が2012年のロンドンオリンピックの女子サッカー、5年生が2017年ワールドベースボールクラシックの代表選手、6年生が2017年ワールドカップ平昌のスキージャンプの選手の写真などを掲載しています。

児童が国歌についてだけ学ぶのではなくて、テレビでよく「君が代」を歌う光景が見られますが、世界の中での日本について音楽の学習からも学ぶことになり、つながると感じました。その点では、私はこの教育芸術社がよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 私は音楽づくりにちょっと着目して見てみました。

教育出版は1年から6年まで見開きで音楽づくりのみの内容のページを設けており、担任の教諭は系統的に指導しやすいのではないかと思います。

教育芸術社は、さまざまな学習内容を含んだ教材の中にうまく構成し、音楽づくりが学習できる教材が豊富で、発達段階に応じたバランスがよく、内容も充実しているのが分かりました。教材をバランスよく配置している点で、教員は各学校の実態を踏まえ扱いやすく、児童にとっても分かりやすいものではないかなと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 例えばオーケストラをどう紹介しているかというのを見ると、例えば教育出版の5年生の教科書は、31ページのあたりですけれども、透明のシートも使って楽器の配置、そういったことも分かりやすく紹介されている。こういうところは一つの工夫として評価してよいのではないかと思います。それから例えばリコーダーの使い方について言えば、教育出版で言うトリコーダーの吹き方について指の定位置なども非常に丁寧に説明をしているというようなところも一つの工夫だと思います。

どこまでこういうのを詳しく書く必要があるか、書き過ぎになるのかというのは、ある意味その学校の音楽を専門に担当する教員がいるかどうかというような、学校の状況によっても違ってきますので、最終的にはそういうことも踏まえて選定をしていくということが必要なのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 ただいま山内先生がおっしゃいましたように、教育出版は曲や楽器の説明などが詳しく書き込まれていて、児童が自宅でも学習をできるように、そういう形では配慮されていると思います。教育芸術社はシンプルで、教員の裁量で工夫した授業が展開できると感じました。今、山内先生も、専任の教員はどうなのだろうというご質問がありました。そこで私からも改めて質問をしたいのですが、現在、港区立小学校18校ございます。音楽の専科の教員は全校に配置されているのでしょうか。

○教育指導課長 港区では音楽の専科教員が、必ず正規の教員が全校に配置されています。ただ、港区はご承知のとおり比較的小さな学校から都内でも有数の大規模校までであるという状況です。学級数に応じて正規の教員だけではなくて講師の教員を、都の講師であるとか区費で独自の講師であるとかを入れているという状況です。

でも残念ながら1年生では担任が指導している学級もあるのですけれども、3年生以上については全て音楽の専科教員または講師が指導しているような状況までうまくいっているところです。そういった意味では概ね音楽の専門性を持った教員が児童の指導に当たっているというのが実態でございます。

以上です。

○**教育長** 今の質問に対する回答でもいいですし、そのほか意見でも構いません。

○**田谷委員** では今の内容から。色々ご配慮いただいているようなのですが、ちなみに今のお話の中で、1年生に対して担任のみが指導している学校、2年生に対して担任のみが指導している学校は何校ぐらいあるのでしょうか。

○**教育指導課長** 1年生で担任のみが指導している学校が18校中10校、2年生につきましては担任のみで指導している学校が18校中3校という状況です。

○**教育長** 田谷委員、いかかですか。

○**田谷委員** ありがとうございます。今、課長にお答えいただきましたが、音楽の専科教員や講師が全校に配置されていて、3年生以上ということでしたが専門性のある教員に指導を受けることができるように、港区では細かい解説を重視するというよりも教員自らが授業づくりを進めやすく、実態を踏まえて指導に当たっていただきたい。児童の理解が深まることから今話を総合して考えますと教育芸術社の教科書がよいかというふうに思っております。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**山内委員** 音楽の教育では、単にリコーダーを吹けるようになるとか、歌を表面的に譜面どおりに歌えるというだけでなく、やはりその音の表現というか、ダイナミックをどう表現するか、強い音、弱い音、そういうものをどう表現するか。あるいはいくつかの楽器の掛け合う音色をどういうふうに表示していくか。そういう表現力を曲の中で養っていく。それからまたそういう繊細な表現にも耳を傾けて、そういう感性を養うということが非常に大切になってくるというふうに思います。

そういう観点から見ると、教育芸術社の教科書の方が、どの学年を見ても、そういう音の表情をどうつくるかということについては視覚的にも分かりやすく表記が説明されている。そういう点で教育芸術社の方が教科書として望ましいように私は思います。

○**教育長** ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○**中村委員** 私は田谷委員と山内委員の意見に同意いたします。

○**薩田委員** 私も教育芸術社がいいと思います。でも、教育出版の5年生では、港区の児童もサントリーホールで演奏を聴かせていただく機会がありますので、そのオーケストラについてのことが詳しく載っていたり、シートをちょっと工夫されて子どもの興味を引くようなところが出ているのはとてもいいと思うのですが、教育芸術社で賛成いたします。

○**教育長** 選定資料等をもとに、2社の教科書ごとに内容の取り扱いのさまざまな点からご意見を頂戴しました。2社ともそれぞれ工夫点が見られるということですがけれども、港区における教員の配置状況、あるいは児童の置かれている音楽的環境から考えると教育芸術社の教科書の方が港区の実態に合っているということだと思います。

それでは改めてお伺いしますが、音楽の教科書については教育芸術社でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、音楽の教科書につきましては教育芸術社に決定いたします。

次に図工の教科書についてです。図画工作科の今回の学習指導要領改訂のポイントとしましては、育成を目指す資質・能力に創造が位置づけられたことが挙げられます。今までも絵や立体的な物を造作する際、発想や表現する力が求められていますけれども、一層その点が重視されております。この点も踏まえまして、ご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○山内委員 今回の2社の教科書を見てみますと、どちらも、それぞれが自分の感性を働かせながら活動をし、そしてさらに表現をしていくということ、そこに向けての色々なヒントが提示されているというふうに思います。つまり一つの作品だけで終わりではなくて色々な作品を示しながら、こういう表現方法もあるのだということを感じとりながら、そして自分がどう表現するか、どう観察して、どう感じとって、どう表現をするかというようなことを考える糸口としては、それぞれ工夫されているという印象を持ちました。

その中でさらに細かく比較をすると、それぞれの図工について紹介されている作品の数、それからその作品の表現の幅というのでしょうか、そういうのを見ると、日本文教出版の方が豊かなように思います。表現の幅が広いということは、子どもにとってみれば、一つの表現に誘導されない、自分なりの表現を考えるというきっかけにもなりますから、そういう点からは日本文教出版の方が優れているのではないかという印象を私は抱きました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 学校現場の視点で見ますと、各小学校に図画工作科の教員がいらっしゃるのです。その多くが専門性を有しています。つまり子どもたちの個性的な発想を引き出し作品に反映させるなど、授業力がある教員が指導していると思っております。これらの教員は子どもたちの発想を生かすために、教科書に掲載されている児童作品や一般作品を参考として活用することも考えられるのではないかと思います。こうしたことから、より多くの作品数が掲載されているように思われる日本文教出版が私はよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがですか。

○田谷委員 そうですね、各社それぞれの教科書の作り方によってくるとは思うのですが、開隆堂の教科書は児童作品の一部にキャプションがついていて、作品のテーマのみならず制作過程も紹介されています。このことは図画工作が苦手な児童にとってはものすごい参考になると思います。

ところが一方でゴールのイメージがわいてしまうものですから、作品がつくりやすい反面、教科書に掲載されている作品自体に終始してしまうのではないかということも考えられると思います。今、薩田委員もおっしゃいましたように、担当する教員がそれぞれ学校に配置されておりますので、そういう意味では学習指導要領による、創造する力という言葉がございますが、それを育成する観

点から、もちろん専門の教員もいるわけですので、日本文教出版の教科書がよいのではないかと
いうふうに思っております。

○教育長 ありがとうございます。

そのほか学習指導要領の改訂のポイントの中に、生活や社会の中の形や色などにかかわることも
明記されていますけれども、その点についてはいかがでしょうか。あわせて、図工となると工作の
際にさまざまな工具を使います。技能の習得の観点からという点でもいかがでしょうか。ご意見を
頂戴できればと思います。

○中村委員 東京都の調査研究資料を見ますと、作品等の数では、生活や社会の中の形や色につい
ての作品数について、開隆堂の方が109点、日本文教出版は247点ある、日本文教出版の方が
多く掲載されているという数字が出ております。特徴的なものとして私が一点指摘したいのが、日
本文教出版の5年、6年の教科書の下巻の34ページ、35ページあたりになるのですが、
いわゆる一つの物でも見る角度を変えてみたり、あるいは焦点化して見ることによって普段の自分
の生活の周りにも、身近なところに芸術があるということに気づくのではないかと考えます。こう
いうことから考えて、これを契機に子どもたちも日常生活の中での芸術というようなものを発見し
てほしいなと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○山内委員 今、中村委員から言われた身近なところからというのは非常に大切な点だと思います。
どう身の美を見出すか、それを感じとれる感性を養うかということは大切で、特に今、ますます
テレビも、あるいはネット上のY o u T u b eも何も非常に刺激を強くして、その刺激の強いもの
になれ過ぎるという時代にあって、ささやかな身の美を見出せるとか、そういう意味ではきっか
けになる。あるいは風による動きとか、あるいは音からどういう色を感じ取るかとか、そういう刺
激を色々、図画工作の授業の中から子どもたちがその面白さを知ってくれるといいなというふう
に思います。

そういった点では両方工夫されていますけれども、私の主観的な印象としてはやはり日本文教
出版の方がそこへの配慮があるように思いました。あと工具の使い方なども両社とも巻末に分かり
やすくまとめられていますので、それは授業のときに安全面の確認も含めて確認をしながら授業を
展開できる、そこにも利用することができるというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

委員の皆さんからは、選定資料等を踏まえましてさまざまな意見を頂戴しましたが、日本文教出
版の教科書を推薦する声が多かったように思います。図工につきましては日本文教出版の教科書で
よろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、図工の教科書につきましては日本文教出版に決定いたしました。

次に家庭の教科書についてです。今回の学習指導要領の改訂におきましても、消費生活や環境に配慮した生活の仕方や、学習した知識・技能を実生活で活用することが改めて重視されています。この点も踏まえまして、ご意見を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。

○薩田委員 家庭は言うまでもなく日常生活に直結した教科です。こうしたことから、より日常生活で実践できる教科書というのはどれかという視点で採択すべきだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 今、薩田委員がおっしゃったように、より日常生活で実践できる教科書ということだと思います。即役に立つことだと思います。

個人的な話で恐縮なのですが、私は小学生の頃は家庭科の時間が大好きでした。特に調理実習の時間はできたものを早く食べたくてやんちゃをしていた覚えがあるのですが、そういった視点でも、特にこれは2社しかないので写真や説明等、大変細かく見させていただきました。

細かい話になりますが、東京書籍では50、51ページ、開隆堂では42、43ページにご飯の炊き方というのが載っております。これは驚いたのですけれども、透明のお釜で炊いているのかな、だから中のご飯の状況もよく分かって、非常にこれは子どもたちには理解しやすい表し方だと思って、この2社とも同じような形で載っています。

家庭でも実践できる資料となる一方、これは実はちょっと教科書の大きさが、本文や参考資料の量がその教科書の大きさによって異なってきます。1ページに表せる量がですね。具体的にはA4判の東京書籍の方が細かく書かれていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 小学校の家庭科の教育には私自身はもっと工夫が必要だと思っていて、調理とか裁縫のボリュームが多いのは昔から変わらないのですが、これはどこまで家でやることで、どこから学校でやることなのだろうと思うと、もう少し新しい展開があってもいいのではないかというふうにも思っています。

そういう意味では、単に食事をつくりました、何々を裁縫でつくりましたというところで終わらないように、どう広がっていくかということが必要であって、その点では私自身は両教科書とももっと工夫をしてくださいということを言いたいと思います。

ただ、少しずつ新しい視点も入ってきていまして、例えば東京書籍などを見ると、今、持続可能な暮らし方へ、物やお金の使い方というような観点で今の色々な社会の変化の中での消費活動について新しい視点が入ってきています。こういうのも重要なことだと思います。ただ、これも単に単語で終わらないで、どういうふうに社会が変わってきていて、だからこういうことが起こっている、だからここでどう気をつけなければいけない、あるいはどう活用しなければいけないというところ

をこの教科書がどうそこまで展開できるかというのがきっと教員の腕の見せどころなのではないかというふうに思います。

同じように、例えば一方で開隆堂の方だと「クリーン大作戦」といって掃除のことなどもありますけれども、家庭科で本来身近な題材を使って理科的な視点と社会科の視点とを入れながら、例えばゴミの問題をもっと積極的に考えてみるとか、そういう身近なところからそこまで広がっていければいいなというふうに思っています。

そういう意味では、家庭科については、そこにとどまらない生かし方をできるかどうかということについては教員の方々に工夫を期待したいというふうに思っております。

○教育長 ありがとうございます。

家庭では消費生活あるいは環境に配慮した生活などを学び、生活の仕方を改めて考える、見直し、そして工夫していくことも重要です。2社ともそのことを意識した教科書になっていると思いますが、その点についてご意見を頂戴できればというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○中村委員 両社とも、買い物等、日常生活を切り口にして消費者としての意識を高めるという項目を設けており、特にこれまで教科書にはなかったいわゆる売買契約というようなものについても取り扱いを補っております。具体的には東京書籍では34ページ、それから開隆堂では61ページに書いてあります。先程、田谷委員や山内委員もおっしゃってございましたけれども、結局、売買契約ということ小学生で教えるということが、私は商売柄自分が弁護士をしていることもあって、小学生で売買契約なんて教科書で理解してもらえるのかなというようなことで、若干疑問もあるのですけれども、やはり昨今、消費者被害、オレオレ詐欺等を含めた消費者被害を防ぐために、小学生の頃から消費者としての意識を高めるという意味で、こういう売買契約についての基本というようなものはやはり教える必要があると思ひ、そういう観点から見て、どちらの方が小学生にとって分かりやすいかなという観点で見ると、東京書籍さんの方は、その売買契約というのが申し出と承諾によって成立するものなのですよということを言葉だけではなくて、ちゃんと図に示して書かれております。一方、開隆堂さんの方は図ではなく文章だけの説明になっております。ですので、売買契約の説明としてはやはり東京書籍さんの方が分かりやすいのかなというふうに感じております。

今後、子どもたちが社会人として自立していくためにも契約行為については理解してほしいという観点から見ると東京書籍さんの方がいいのかなという印象を持ちました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○薩田委員 そのほかというと、環境に配慮した生活とか工夫ということについては、東京書籍では56ページから、開隆堂は32ページからを中心に、両社とも積極的に取り上げているようです。特徴としては、東京書籍は家庭から出る1年間のゴミの量や、子どももよく知っていますが、日本の伝統の「もったいない」などの関連資料が掲載されています。社会問題からどのように自分たちが行動すべきかなどの話し合いの材料になりそうです。

一方で開隆堂は、小学校での取組事例が、とても身近だと思うのですが、色々掲載されています。自分の学校ではどのような取組が考えられるかなどについて話し合えるのではないかと思います。子どもたちの視野を広げ、自分事として捉えて実生活に生かすという意味では東京書籍の方がよいのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 先程、料理のことも申し上げましたが、もうちょっと補足をすると、家庭科の教科書って本当におみそ汁づくりが昔から好きで、今回もおみそ汁づくりが出ています。やはりこういうものをどう健康教育とつなげるかということが重要で、その点ではもう少し工夫を出せたらと思います。

分かりやすく言うと、日本人の塩分の摂取量が非常に多いというような話が問題になっていて、以前よりは随分減りましたが、まだそれでも高い。それはかなり高血圧のリスクが上がることははっきりしていて、血圧の高さがそのまま、特に脳溢血のリスクファクターとして非常に強い関係があるわけです。みそ汁というのは確かに伝統的な食事のメニューの一つですが、一方で塩分の摂り過ぎにもつながりかねないわけで、そういうことをどういうふうにあわせて子どものうちから伝えていくかということ、もっとそういう健康面も含めた教育の展開があるといいなということも思っています。教科書会社の人が後ろで聞いていけば、そういうことも次回、工夫してくださいということをお願いしておきたいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。よろしいですか。

委員の皆様からは、東京書籍の教科書の方が図などの活用、それからより丁寧な説明がされていますし、また、参考となる資料が掲載されているということで、子どもたちの学びを広げて日常生活に実践できる教科書であるということの意見が多かったと思います。

家庭につきまして、東京書籍の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、家庭の教科書につきましては東京書籍に決定いたします。

それでは、教科書の入れかえがありますけれども、いかがいたしましょう。若干休憩いたしますか。2時間半になりますので。休憩後、お昼入ってもよろしいでしょうか。それでは休憩を10分間入れまして、12時10分から委員会を再開させていただきます。その間に教科書の入れかえを行いますので、よろしく願いいたします。

(休憩)

○教育長 それでは、休憩前に引き続きまして教育委員会を再開いたします。

次に保健の教科書についてです。学習指導要領の改訂では、心の健康やけがの防止の学習に議論の内容が示されるなどの内容の改善がありました。それでは、このことを踏まえましてご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○山内委員 今ご説明があったような視点についても比較したときに、東京書籍を見ると特にほかの会社と比べてイラストや写真が多く掲載されている。それから具体的にどう対処されるかということについても分かりやすく説明をしているという点では優れているように思いました。単元の初めに学習の進め方、課題を提示して、そして学習の流れの中でそれを理解するということ。さらにそれをどう表現して伝えるかということも、そういう流れも分かりやすく丁寧につくられているという印象を持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○田谷委員 今、山内委員が学習の流れとおっしゃったのですけれども、学習の流れといった視点で見えますと、学研教育みらいは、単元の学習をまとめる、深めるの欄を設けていて、学んだ知識を活用してそれぞれ児童の日常生活につなげていくような構成になっております。学んだことを実生活で実践していく、こういった意欲を高めること、これは非常に大切なことだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 大日本図書は導入ページに日常生活を俯瞰できるイラストを掲載していて、児童の学習意欲を高める授業展開ができると思います。ただ文教社は、体の発育・発達の単元で写真ではなくイラストで身長の変化や体の変化を示している工夫もよいなと思いました。

あと体の発育・発達の単元について、東京書籍の3、4年生の教科書の10ページに体の部位についての英語表記がなされております。外国籍の児童にも対応していることが港区の実態には合っているなど感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○薩田委員 学研教育みらいは、1時間で指導する分量を見開きページで構成していて、児童が学習の見通しを立てやすい編集であると思います。単元のまとめのページに「学びを生かして」という記述欄があって、学習したことを普段の生活で生かしていこうとする意識づけができると思います。

また、どの教科書でも発展的な学習内容を示していますが、光文書院では港区が東京慈恵会医科大学と連携して練習を行っているASUKAモデルを5、6年の35ページに少しですが取り上げています。私も御成門小学校の体育館で実際に慈恵のドクターのお話を聞きながら、この体験をいたしました。何校か小中学校で体験している方もいらっしゃるのではないかと思います。これからもこれは継続していくようですので、とてもよいのではないかなと思います。

また、パソコンやタブレットと健康に関する内容ですとかお薬手帳のことにも触れていて、発展的な内容が充実しているように思いました。

○教育長 今、薩田委員のご意見にもありましたけれども、発展的な内容という視点ではそのほかの教科書はいかがでしょうか。

○山内委員 発展的な内容ということについて言うと、東京書籍が他に比べると比較的どの項目もしっかりと書かれているというふうに思います。やはり安全の問題とか健康に関する問題というのは、まず最低限必要な知識をきちんと理解してもらおうということがどうしても必要で、その点では、これを読むとある知識を得られるというようなところがあるということは教科書なるものには必要だと思います。

例えば今、ASUKAモデルの話がありましたけれども、重要なのはASUKAモデルを知ることよりは、実際にベーシック・ライフ・サポートの対応の仕方をきちんと理解し、そしていざその場面に遭ったときに、つまり人が倒れているというときに、反応を確認して、そして応援を呼ぶとか、それから実際に胸骨圧迫、心臓マッサージですね、それをする。それをどうしたらいいのか、その辺のことをきちんと知って、実際に体が動くようにするということが大切になるわけです。

そういうことを考えると、そのベーシック・ライフ・サポートの方法についてきちんと書かれているか、つまり人が倒れたときに、反応を確認するところから胸骨圧迫をどういうふうに行うか、胸骨圧迫のときの強さとか速さとかいうことも含めて、そしてAEDまでという流れを具体的に分かりやすく示していたのは東京書籍だけでした。

ほかを比較すると、光文書院は心臓が止まってから、心停止してから時間の経過とともに蘇生率が下がるということはグラフで分かりやすく示していますが、具体的な方法までは書かれていないというところではもったいないなというふうに思いました。私自身が勤務している学校がもう20年以上前から小学校も含めてその生徒にベーシック・ライフ・サポートのことを実際に実技で指導していますけれども、やはりそうするといざ高校生とか大学生でも駅とかで倒れている人がいたというときに実際に体が動いて、そして助けることができたということがやはり何人もそういうことがあるわけです。そういう意味では、やはり港区の区民もみんながそういうことを小学校から中学校、高校と何回も繰り返して体験をして体が動くようにする。もう一つは、そういう中で生命を守るということの大切さの理解を深めていくということが大切で、そういう点からすると、このベーシック・ライフ・サポートの項目だけで見ても東京書籍はかなり丁寧に書かれていると思いました。

それからタバコの問題。なかなか喫煙率が日本は下がらないままで止まっています。昔よりは下がったといってもそれ以上は下がらないところもありますが、喫煙についても注目をしてみると、各社大体2ページ程度使って丁寧に説明をしています。ただ、どういうふうに子どもに対してそのタバコの怖さを印象深く伝えるかという点で言えば、東京書籍は、喫煙者と喫煙していない人の肺の比較を写真を出している。その写真の大きさもかなりはっきり大きく出していますし、それから外観だけではなくて複数で、その肺を断面で写真も出していて、タバコの怖さというのが子どもに

も視覚的に伝わるようになってきているというようなところもありました。

そのほかユニバーサルデザインなどについても詳しく取り上げられている。そんな点で見ると他社に比べてかなり5、6年生の教科書は優れているという印象を私は持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 山内先生のおっしゃったとおりだなと思います。東京書籍の6年生の教科書の61ページの健康な歯茎と歯周病の絵。低学年では親が「歯を磨こうね」と言うのと磨くのですが、虫歯菌が怖いからとか、そういう幼児教育にもありますが、ただ高学年になると意外とめんどくさいからとか、親もそんなに口うるさく言わなくなってしまうので、意外と磨かなかったり、めんどくさいやで終わってしまうことが多いのですけれども、なぜ本当に磨かなければならないかということが詳しくとても丁寧に書かれていると思います。虫歯だけではなくて、その先のことも考えて色々勉強ができるのではないかと思います。

また65ページの、山内先生がおっしゃったように、タバコを吸うとどうなるのかというところが具体的にこの写真を見ると実感できると思います。

あと最後の方にステップ3として、教科書に直接自分の考えを書き込めるという欄もあったりして、現場の先生方には活用しやすいのではないかなとは思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 選定委員からの資料では、学研教育みらいが安全教育やがん教育に対する内容が充実していることが分かります。学研教育みらいは、補充資料も豊富に掲載しているほか、図や写真もバランスよく配置されており好印象を持ちました。先程も言いましたが、実生活へのつながりを持たせるという意味で学研教育みらいが一番よろしいのではないかと考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 今、田谷委員の方から話が出ましたが、学研教育みらいもそういう意味では発展的な資料では充実しているとは私も思います。一方、東京書籍さんは現代的な課題に対応した資料が豊富ではないかと思います。例えば東京書籍さんの5、6年の教科書の62ページでは、がんに関してですが、予防も含めた点で非常に分かりやすく、しかも大腸の健康な部分と、がんができた大腸を写真で対比するような形で示しており、こういうところから見ると、がんを予防するための豊富な知識等という観点から見ると決して東京書籍も劣ってはいないという感じはしました。

以上です。

○教育長 委員の皆様の意見にもありましたけれども、東京書籍の教科書を評価する意見が多いように思いますけれども、学研教育みらいを推薦する人もいました。さらにちょっとご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○山内委員 私自身は先程申し上げたような理由で東京書籍がよろしいのではないかというふうに

考えています。もちろん東京書籍が完全ということではない。今回、各会社の保健の教科書をかなり丁寧に見ましたけれども、例えばどの教科書も、今、港区の小学生、中学生の生活実態の調査を見ても問題になっているネット、スマホの利用時間の長さ、あるいは今医学的にも問題になっているネット依存、ネットゲーム依存ですね、そういう問題に対しては実はどれもほとんど書かれてない。ネットやタブレットを見過ぎると目が悪くなる、そういう身体的な影響などは書かれていても、本当の意味での依存の問題というのは書かれてないわけです。そういう意味では、当然そういう部分はぜひ、教科書にないものでも授業の中でさらに補って展開していただきたいというふうには思います。

そういうことがありますけれども、それはどの会社もその部分はきちんと書かれてないところであって、全体的に見れば東京書籍がよろしいのではないかというふうに思います。

○教育長 それでは、ほかの先生方、いかがですか。

○田谷委員 色々ご意見があつていいことだと思います。先程も申しあげましたように、補充されている資料とか、それから写真や図画のバランス、そういう意味ではやはり学研教育みらいがいいかなというふうに思っております。

○教育長 ほかの委員の方はいかがですか。

○中村委員 先程もちょっと言いましたけれども、皆さんのご意見を聞いた上で東京書籍の方がいいというのが私の意見でございます。

○教育長 薩田委員、いかがですか。

○薩田委員 私も東京書籍がいいです。

○教育長 そうすると皆さんのご意見をまとめまして……。

○田谷委員 ちょっとよろしいでしょうか。済みません。

私も今、東京書籍の、先生方が説明されている該当するページをここでも拝見しているのですが、先程、山内先生の専門的なお立場で、例えば非喫煙者と喫煙者の肺という写真が断面なのですかね、あるのですが、これは該当学年にはきつくないでしょうか。

○山内委員 きついというのは、どんな点で。

○田谷委員 どういう点でかと言うと、私的には非常にグロテスクだなと思うのですが、かえって、これぐらいインパクトのあるものを見せた方がいいのか、ご専門的な立場ではその辺はいかがでしょうか。

○山内委員 私自身の考えでは、もちろん過度に怖がらせるとか怯えさせるということではやはりいけないとは思いますが、しかしやはりタバコを吸い続けるとこうなるのだということを小さいうちからきちんと理解してもらい、それは子どもにとって大切なことだと思います。やはりよりよい生活習慣をつくっていくときに、もうその害が分かっているなら、その怖さをきちんと伝え切れないうま、遠慮をし過ぎたり気兼ねし過ぎて結果として喫煙をして将来このような肺になって、色々な健康問題が出てくるというのはやはり子どものために気の毒なことで、ですから気兼ねをしなくてきちんと伝えるというのも本当の意味での子どもに対しての教員としての親切である、誠実

さだというふうに思います。

○**田谷委員** なるほど。ということは、もうかえってオブラートに包むよりも出した方がいいと。その前のページにも、がんでできた部分の大腸なんていうのも、これも結構グロテスクな写真があるのですけれども、これは該当が5、6年生ですよ、それぐらいであればその辺もいいかな、かえってその方がインパクトがあると。なるほど。私の時代にあれば、私も喫煙しなかったのではないかと思います。今はやめているのですけれども。

○**教育長** よろしいですか。

○**田谷委員** 分かりました。もしそういうことがご専門の立場から子どもたちに問題ない、かえってその方がいいのではないかということであれば、私も現場の先生方の使いやすさを考えて東京書籍かなというふうに思うようになりました。

○**教育長** 分かりました。

それでは、4名の委員、皆さん東京書籍ということで、改めて確認いたしますけれども、保健につきましては東京書籍の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○**教育長** ありがとうございます。それでは、保健の教科書につきましては東京書籍に決定いたしました。

次に、学習指導要領で外国語として示されている英語の教科書について採択をいたします。

英語につきましては初めての教科書の採択になります。学習指導要領には、「外国語科においては、英語を履修させることを原則とする」との記載があります。

また、港区においては全ての区立小学校が教育課程特例校としての承認を受けて平成19年度より国際科として英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培ってきました。これらのことを踏まえ、港区では外国語として英語を履修させたいと思います。

そこで、まず事務局の方に質問ですけれども、令和2年度からは採択した教科書を、もう既に国際科ということで英語による学習は行われているのですけれども、この採択した教科書をどのように活用していくのか、ちょっと事前にご説明をお願いします。

○**教育指導課長** 港区では、先程教育長がお話ししたとおり、教育課程特例校として平成19年度から全18校の教育課程に国際科ということで位置づけさせていただいて、小学校1年生では68時間、小学校2年生から6年生では70時間、英語活動であったり国際理解教育であったりといったことで英語による実践的コミュニケーション能力を培うような授業をやってまいりました。

今回採択される教科書は学習指導要領に示されたとおりに小学校5年生と6年生で活用していくということになります。港区の実態では小学校1年生から国際科の授業を実施しているため、教科書の内容を既に学習している場合もあるという状況も生まれますので、70時間の授業の中で採択された教科書を使う場面ですとか、また、港区で独自につくっております国際科テキストを使う場面ですとか、東京都の英語教材を使う場面、そういったものを駆使しながら授業を行っていくことになります。

以上でございます。

○**教育長** 教育委員の皆さん、何かほかに事務局の方への質問はありますでしょうか。

なければ皆さん方からのご意見を伺いたと思います。

○**山内委員** この外国語に関しては、英語で聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと等、言語活動、さらにそれを通じてコミュニケーション能力を高めるということが大切になるわけです。今お話があったように港区の場合には小学校の1年生から国際科の授業でネイティブの教員と担任とで授業を組みかえていっています。さらに言えば、外国語を母語にする、あるいは母語にする親を持つ生徒というのめかなり多い環境ですから、そういう中で非常に子どものときから英語に親しむという優れた教育の現場環境もあるということです。そういう中で考えると私自身は、どの教科書を選ぶにしても教科書に縛られない、あえて言えば教科書をあえて使わないでもいいというぐらいの、1年生から丁寧に英語の教育をしているということを生かして、港区としてさらに教科書に縛られない教育を実施していただきたい。あるいは、その教育成果を検証しながらさらにバージョンアップしていただきたいというのが私の強い希望であります。

そういう意味では、教科書は其中で一応手元にあるのにどれがいいかというような観点でお決めになってもいいのではないかとこのぐらいに思っているところです。

○**教育長** ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○**中村委員** 東京都の教科書選定資料で示された四つの原理、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、この四つの機能がバランスよく取り上げられているのは東京書籍であり、かつ取り上げている活動数も一番多いという数字が出ております。その次が、啓林館、学校図書が多く、これら3社は取り上げている活動の数が豊富であるということが分かります。

以上です。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。

○**薩田委員** 東京書籍は、5年生の66ページで日本の四季や文化を紹介する場面を取り上げているように、言語の使用場面が分かりやすく提示されています。そしてそれは児童の関心が高まりやすいと思います。同じ5年生になると52ページのコーナーのように、時事や世界の情報が豊富、簡潔に扱われているという点でも児童が興味や関心を持ちやすい教材が多いと思います。

また、内容面では単語や英文を書く欄や活動に取り組む箇所が多く、学習内容のレベルが非常に高いところが港区の実態に合っていると思います。

○**教育長** ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○**中村委員** 開隆堂は5年生の49ページでブラインドサッカーを取り上げています。身近な社会や世界とのかかわりについて題材を取り上げていますので児童が興味や関心を持ちやすいなと思いました。教科書全体がアニメのストーリーのように進んでいくので、児童は受け入れやすいと感じるのでないでしょうか。

自己紹介の扱い方が多岐にわたっているなど学習内容はやや高め、1年生の頃から英語で自己紹介をすることになっている港区の子どもたちにとっては発展的な学習となり、よいのではないかなと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○田谷委員 今の話でも出てまいりましたが、学校図書や啓林館は場面設定の活動内容がパターン化されていて、單元ごとの学び方が統一されているので分かりやすい教科書であるという印象です。

教育出版は全体的に問題文がシンプルで、会話文のやりとりが理解しやすい構成になっていると思います。

また、光村図書においては6年生の10、11ページにあるように、相手への対応や言葉に気持ちを込める学習が入っているので、生きたコミュニケーションを学ぶよいきっかけになると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 その他の今挙がってない出版社についても一応見ておくと、例えば三省堂はHOP、STEP、JUMPというような中で全体の流れを分かりやすく示しながら教科書を構成しているということ。それから例えばグループでポスターをつくって発表をする、英語でポスターをつくって発表をしようとか、そういう主体的に発信をしていくという動機づけをしているというようなことは評価できるかなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

委員の皆様から、これまで港区の実態に即したご意見をいただきましたけれども、ほかの観点からご意見がればお願いしたいと思います。

○中村委員 開隆堂と啓林館にはCAN-DOリストやCAN-DOマップがついていて、1年間を通してできるようになることが一覧として把握できるようになっております。こうした一覧があると、英語科を通して何を学んでいくのか捉えやすいですし、反対にどれだけ自分ができるようになったのかということの振り返りにも使えていいなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○山内委員 各社を比べる中で、やはり先程申し上げたように港区の場合には教科書はあくまでも補助的なものであって、本来の1年生から行っていく教育をどう展開するかということの方が大切だと思っていますけれども、そういう中で何か糸口として面白いものがあるかなという観点で教科書を見たときに、東京書籍は例えば6年生の84ページですが、英語の歌というものが二つ紹介されています。ある意味で英語に親しむ、外国語に親しむというのもいわゆる外国語の時間だけでは

なくて、時には音楽の授業の中で、イギリスとかアメリカとかで古くから親しまれている、そして日本人にもなじみがあるような歌を英語で歌うとか、そういう展開も大切で、一つの糸口となる。それから隣のページにはお薦めの英語の絵本というのがあります。これを見て私が今思い浮かんでお願いしたいのは、例えば学校の図書館に、子どもたちが日本語でなれ親しんでいる、翻訳でなれ親しんでいる絵本、それにオリジナルの英語の絵本を並べておくとか、そういうことを積極的に展開できると小さいときからもっと英語に親しむことができるようになる。そういう意味でそういうことをぜひ港区の各校でもやっていただきたいと思っていますけれども、その入り口としてお薦めの英語の絵本、そういうものが紹介されている。そういうのも東京書籍の教科書というのは悪くないなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。要望も含めてですね。

そのほかいかがでしょうか。

○田谷委員 東京書籍は、この単元で何を学ぶのかというゴールと重要表現が何度も提示されている構成になっています。児童が何を学ばよいか明確な見通しを持って学習できるようにしてあります。合わせて教科書の使い方が巻頭に示されていて、これからこの教科書を使ってどのように学んでいくかということを示していて、これはよいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○薩田委員 私も東京書籍になります。掲載されている語彙の数が多くて、テーマごとの一覧表形式となる辞書が別冊でついています。別冊の方はイラストと文字で表現されているのでとても分かりやすいと思いますし、中学生になってからも、また英語が苦手な私など大人でもちょっとこう見るのに十分使える語彙数だと思います。これはとても私としてはいいなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがですか。

○中村委員 同じく東京書籍ですが、1ページの中にテーマに関連するさまざまな情報が取り上げられております。ライティングも多く取り上げられていて、巻末にあるように会話文で書くことの学習ができるのは非常に難易度も高いと思いますので、港区の子どもたちの実態には合っているなと思います。

以上です。

○教育長 そのほかいかがですか。

これまでの意見を踏まえると、取り扱っている活動数が多い、それから内容も豊富であるとともに学習内容の難易度が高いということで港区の教員、あるいは子どもたちの実態に合っているのは東京書籍という意見が多くありました。

英語の教科書につきましては東京書籍ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、外国語としての英語の教科書につきましては東京書

籍に決定いたします。

それでは最後に、特別の教科 道徳の教科書についてご意見を伺いたいと思います。特別の教科道徳は、平成29年度に廣済堂あかつきの教科書を採択しまして2年間が経過いたしました。この教科書を使用している学校からの意見についてはどんな意見があったか、私も読みましたけれども、委員の方からもしお話しいただければと思います。

○田谷委員 道徳の教科書を拝見いたしまして、どれも非常に楽しく読めるのです。教育長もお読みになって、今、読みましたという話が改めてあったと思うのですけれども、本当にどの教科書も読みふけてしまう感じがあります。

今、前回、廣済堂あかつきということではいかかでしょうかというのがありましたが、各学校から来ている研究報告書を見ますと、内容に関しては発達段階に即している話し合いや意見を出し合うのに適した教材になっているという意見や、教材の最後に考える観点が載っているので使いやすいといった評価がありました。一方、題材がわざとらしく道徳的価値が固定化される懸念があるとか、定番の教材が多い分、学年によっては考えづらい可能性があるという意見も少数ではありますが挙がっておりました。

別冊ノートに対する評価は、別冊の道徳ノートを活用することで問題解決的な学習活動を展開でき、児童の思考を深められるというように評価の高い学校と、使いづらいと感じている学校と賛否が分かれているようであります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○山内委員 まだ廣済堂あかつきの教科書を使い始めたばかりで、おそらく教員の方がその教科書によろやくなれてきた頃ではないかと思います。もし現場で「いややっぱりこの教科書は使いにくい」という意見が出ているのであれば別ですけれども、そうでなければ、まずはこの教科書を使い込んでいくということの方が混乱がなくて望ましいのではないかというふうに思います。その点で実際に現場の先生方から、どういう懸念とか、どういう希望、そういうのが出ているのかということについて教えていただければと思います。

○教育長 事務局の方、どうですか。

○教育指導課長 現場の声として、当初廣済堂あかつきを採用した際は、別冊ノートになっているとか、教材が主教材と副教材があったりとか、今までの概念と違うような教科書構成だったということで、多少面食らっているところで始まったなというふうに思っています。ただ、だんだん慣れてくると、その教材の自由度が高くなってくる。先程、田谷先生のおっしゃったとおり色々な評価が分かれています。当然のことながら、これを好みとしている人もいれば、好みでない人もいるというのは現実としてあるわけです。その中で、やはり意見としては、短期間で変わってしまうとせっかくなれてきたのになんと思っている教員もいます。当然のことながら、もうせっかく教科書が今度改訂されたので、ほかの教科書会社もいいのが出てきているのではないかという感想をお持ちで、この際だから新しい教科書にしてもいいのではないかなんと思っている方もいるので、両方の面が現

場の声からは聞こえているというふうにお伝えいたします。

以上です。

○教育長 廣濟堂あかつきの教科書を使い始めた当初は色々意見があったということですが、現在は廣濟堂あかつきがよいという意見と、もっとよい教科書があれば変更したいという意見が挙がっているということですが、そういう点で非常に判断が難しいのですが、学校現場もこの廣濟堂あかつき以外の教科書を実際に使っていないので何とも言えないところだというふうに思います。よりよい教科書があるのであれば変更したいという意見も一定数あるのだということで資料の方には出ておりました。

それでは、現在使っている廣濟堂あかつきと比較して各社の優れているところ等があれば、ご意見を頂戴できればというふうに思います。いかがでしょうか。

○中村委員 まず東京書籍なのですが、重点テーマに関して各学年3回扱えるように配置されているため、重点テーマに対して深く考えることができるような構成になっております。ただ反面、各校で重点目標を定めている場合には逆に利用しづらいかなというデメリットにもなり得るかなと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 学校図書なのですが、2冊になっています。一つの教材から多くの考えを引き出し、深く学べるように工夫されているなと思いました。ノート形式の別冊は、心の成長の記録としても役立つと思います。ですが一方で、学習の仕方が細かくもう既に決められているような感じがありまして、教師の裁量で応用しづらいという懸念があるのではと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 私は、光文書院なのですが、生命の尊さを扱っている教材数が3から4教材と各社の中で一番多く取り扱っているのが印象的でした。生命の尊さということが印象的でした。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 教育出版なのですが、学びの手引きに沿って学習を進めれば問題解決的な学習となるように工夫されているようです。反面、道筋がはっきりと示されていますので、見解の幅が狭められるという懸念があると思います。

○教育長 ほかにいかがですか。

○山内委員 今まで出てない教科書で言うと、例えば光村図書ですが、例えばいじめの問題への対応、それからネットなどの情報コラムへの対応、その教材とコラム、そういうのが組み合わせられたままとまりというのもつくられていて、子どもが深く考えられるという構成になっている。そういうところはいいなと思いました。

それから今、改めてめぐりながら、たまたま今、光村の5年生を見てみると、例えばナイチンゲ

ールの話が出ているのですけれども、要はそこにはクルミア戦争で兵士の死の原因は何かというところでの分析があり、最終的にその解決として病院の設計を改善するというところに至るといようなことが書かれています。つまり単に優しさとか愛情だけではだめで、それを解決するためにデータを分析して論理的にも解決するために工夫をすることが必要になるというようところが分かるように書かれています。こういう教材というのはなかなかよいというふうに、改めて今めぐりながら思っています。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

○田谷委員 日本文教出版なのですが、「心のベンチ」というページが設けられておりまして、前段のお話とつなげて考えを深めるページですというふうに書いてあるのですけれども、道徳的価値をさまざまな角度から考えることができるような工夫がされていると思います。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 光文書院ですが、問いをもつ、考える、まとめる、広げるの四つの段階を経て、考えを深める紙面構成になっていて、子どもたちは何をすべきかが分かりやすいと思います。反面、ほかの教科書にもあったように、学び方や考え方の進め方がちょっと書かれ過ぎているというのは指導の幅をかえて狭めてしまう懸念もある。考え過ぎかもしれませんが、そういう懸念もあるような気がします。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○中村委員 学研教育みらいは問題解決的な学習や、あるいは体験的学習が多く扱われているほか、今日に関する教材、あるいは現代的な課題と先人の話を扱った教材数のバランスがとてもいいなと思いました。

また、国際理解について考える教材が充実しているので港区の実態にも合致しています。学校から報告された研究資料においても高い評価を得ていますので、いいのではないかなと思いました。

以上です。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○田谷委員 確かに中村先生がおっしゃるように学研教育みらいは、A4判なのですね。挿絵も見やすく写真も大きいです。児童が教材文に対して感情移入しやすいのではないかと思います。発達の段階に応じて分量、それから字の大きさ、フォントの大きさ、挿絵の量が考えられていることから学研教育みらいの教科書もいいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

それぞれ廣濟堂あかつきとの比較ということで、いいところもありますし、ちょっとこの辺は懸念があるなという教科書もあったかと思います。集約すると、廣濟堂あかつきの教科書に比較して学研教育みらいを推薦する意見が複数の先生方からありました。さらにその点に絞って意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○薩田委員 廣濟堂あかつきについては、学校の教科書研究資料からも、別冊の道徳ノートに自分

の考えを深く書くことができることをとても評価する意見がありました。子どもがどのようなことを考え成長しているのかがノートの記述から分かるので、先生も一人ひとりの子どもたちを評価しやすいのだろうと感じます。もし家に持ち帰って別冊で考え方とかを一緒に考えることがあったら、私もとても分量としても内容としてもちょっと書きやすそうだなとは思いました。なので私は引き続き廣済堂あかつきがよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○山内委員 私は、先程も申し上げたように廣済堂あかつきの教科書をまだ使い始めてからそんなにたっているわけではない。ようやく教員も生徒も、この教科書を使った、あるいはこの教科書のスタイルを使った展開になれてきたところだと思いますので、基本的には同じ教科書を継続して使用するのが望ましいのではないかというふうに考えています。

ただ同時に、各学校でこれだけ多くの教科書、各社の教科書を研究し比較をされていますので、そういう意味では、大切なことはその成果を生かして廣済堂あかつきの優れている点をよりうまく発揮するように、逆に他社のいいところはうまくそれを取り込むようにということをそれぞれの現場で柔軟に対応していただく、そしてよりよい授業の展開をつくっていただく、それが大事なのではないかなというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

○中村委員 先程も申し上げましたけれども、全体的に取り上げている教材やあるいは考える視点を絞り込み過ぎていないという点から見てバランスが非常にいいなというのが私の印象です。ですので、私としては廣済堂あかつきを継続して使うということ以上に、学研教育みらいの方に変えた方がメリットは大きいのではないかと思いますので、学研教育みらいの方をお薦めいたします。

○教育長 ほかにいかがですか。

○田谷委員 私は廣済堂あかつきと学研教育みらいを比較すると、とても悩むところではあります。最後はやはり現場の先生方のご意見、これを大切にしたいと思います。教科書を変えたいという思いの先生方と、このままがいいと思う先生方とどちらが多いのかということは分かりませんが、学校からの研究資料を読みますと、否定的な意見は少数でした。各社否定的な意見は少なからず入っておりまして、現状でいって廣済堂あかつきだけ否定的な意見が多いということではないと思います。また、先程も山内委員がおっしゃっていましたが、せっかく使い始めてやっとな先生、現場もなれてきたところだと思いますので、ここで変えることなく引き続きこれを採用するというのも一つの手ではないかな、現行の廣済堂あかつきがよいと私は思います。

○教育長 皆さん方から意見をいただきました。3名の委員が廣済堂あかつき、1名の委員が学研教育みらいということですが、現在の廣済堂あかつきを採択した、決定したときの教育委員会もやはりあかつきと学研教育みらいと別れた記憶があります。ただ、別に誘導するわけではないのですけれども、先程から先生方がおっしゃられているように当時と違うのは、もう既に使ってい

る、2年間使っているというところが違うのかなというふうに思いますけれども、学研教育みらいの教科書を推薦いただいている中村委員、ご意見ございますでしょうか。

○中村委員 確かに廣済堂あかつきとの比較という観点から言って、道徳の教科書としては私としては学研教育みらいの方が優れているのではないかなと私的には思っているのですが、やはり教科書というのは現場の先生が一番使いやすい教科書を選ぶべきだと思いますし、その学校研究資料の方を見ても、否定的な意見が多ければもう少し頑張りますけれども、否定的な意見が少数というようなことであれば、やはり現場の意見は無視はできないと思いますので、ここは廣済堂あかつきで、もう少し使ってみるということがいいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

それでは皆様のご意見を集約して、廣済堂あかつきに決定することよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、道徳の教科書につきましては廣済堂あかつきに決定いたします。

以上で令和2年度から令和5年度に区立小学校で使用する教科書について全て決定していただきました。

それでは再度確認させていただきます。国語につきましては光村図書、書写につきましては光村図書、社会につきましては東京書籍、地図につきましては帝国書院、算数につきましては東京書籍、理科につきましては教育出版、生活につきましては光村図書、音楽につきましては教育芸術社、図画工作につきましては日本文教出版、家庭につきましては東京書籍、保健につきましては東京書籍、英語につきましては東京書籍、道徳につきましては廣済堂あかつきに決定いたしました。

もう1時になって長時間にわたっているのですが、休憩を入れずに、このまま引き続き教育委員会を継続してよろしいですか。

(「はい」の声あり)

2 令和2年度区立中学校使用教科書の採択について

○教育長 それでは、次に議案第51号「令和2年度区立中学校使用教科書の採択について」審議を行います。

教育委員の皆様におかれましては、小学校の教科書の採択のときと同様に教科書調査研究委員会から提出された教科書選定研究資料等の資料を事前にお読みいただいていると思います。それを踏まえて審議してまいります。

今回の採択については令和2年度のみ使用する教科書となります。その点につきまして、まず事務局の方から説明をしてまいります。

○教育指導課長 まず、先程採択していただいた小学校の教科書につきましては、新しい学習指導要領の全面実施に伴って教科書が新しく検定されたものを採択していただきました。中学校につきましては、来年度は実はまだ学習指導要領が全面実施ではないということで、令和3年度から新し

い学習指導要領で全面実施になりますので、来年度1年間に限り使う教科書の採択ということになります。したがって、教科書採択というのは教科書目録に登載されている教科書から選ぶことになりますけれども、平成27年度、前回の採択をしたときの教科書目録に加えて新しいものが出たかという全く出ていないということになりますので、同じ教科書の中から採択をしていただくことになるということですので、そういったことも踏まえてご検討いただければなというふうに考えているところです。

○教育長 ただいまの事務局からの説明について委員の方からご質問はございますでしょうか。

○田谷委員 令和2年度の1年間のみとの説明がありましたが、採択した教科書は4年間使用するのではないのでしょうか。

○教育指導課長 田谷委員のご指摘のとおり、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の中では4年間使用するというふうにかかれてはいるわけですが、そうしますと、採択されると4年間使うことが可能な印象を受けるのですが、学習指導要領の改訂がありますと、それに伴って、その新しい学習指導要領に適合した教科書を採択しなければならないということで、1年であっても採択のし直しをするということですから、令和3年度には新しいものをもう一度採択するというので、今回は1年間の使用というふうになります。

○教育長 今回の区立中学校使用教科書の採択については令和2年度のみ、1年間の使用ということとであります。

それでは中学校使用教科書についてご審議をお願いいたします。ご意見をお願いしたいと思えます。

○山内委員 今、1年のみというご説明、よく理解できました。ここで新しい教科書を1年限定で使う、新しい教科書に変えるとなりますと、各校では、この1年間だけのために授業の準備をし直さなければいけないということになります。さらに翌年度からの新しい学習指導要領への対応の準備ということも重ねてしなければならないということになると思えます。そういう点では、今年度1年に関して言えば、今の教科書をそのまま継続をして、それをしながら次年度からの新しい学習指導要領に向けて対応するその準備をできるように少しでも余力を持っていただきたいというふうに思えます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○薩田委員 今回提出された教科書調査研究資料と平成27年度に提出された教科書調査研究資料とどのような点が変更になっているのでしょうか。

○教育指導課長 平成27年度の調査研究資料と見比べた結果、変更はなかったということになります。

○教育長 変更がないということでの報告ですので、いかがでしょうか。

○中村委員 令和3年度から全面実施される学習指導要領に合わせて各社が改訂する教科書を来年度に採択するということですので、その点を考えると、現行の教科書に特段の問題点あるいは課題点が挙げられていないということであれば、このまま継続ということの問題ないかと考えます。

以上です。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

皆さんのご意見を伺うと、現在使われている教科書を継続するというご意見であると思います。令和2年度中学校使用教科書の採択に当たりまして、これからご決定いただくわけですので、教科ごとの採択とするか、あるいは全教科一括の採択とするか、事前にお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 全教科一括で採択することがよいと思います。

○教育長 ほかの委員はいかがですか。

○山内委員 私も全教科一括で審議いただいてよろしいかと思えます。

○教育長 ほかの委員はいかがですか。

○薩田委員 私も賛成です。

○教育長 中村委員はいかがですか。

○中村委員 同様に私も賛成いたします。

○教育長 全教科一括で採択ということで了承いただきました。それでは全教科一括で採択することといたします。

今年度、中学校で使用されている教科書を確認いたしますと、国語は光村図書、書写は学校図書、地理は東京書籍、歴史は教育出版、公民は東京書籍、地図は東京書籍、数学は東京書籍、理科は啓林館、音楽は教育芸術社、美術は光村図書、保健体育は学研教育みらい、技術は東京書籍、家庭は東京書籍、英語は光村図書であります。令和2年度につきましては、今年度中学校で使用している今私が読み上げました教科書を継続して採択することでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。それでは、令和2年度に区立中学校で使用する教科書につきましては今年度と同じ教科書に決定いたしました。

以上をもちまして、令和2年度に区立中学校で使用する教科書を全て決定いたしました。

少々くどいようですが、決定したので再度確認いたします。令和2年度に区立中学校で使用する教科書は、国語につきましては光村図書、書写につきましては学校図書、地理につきましては東京書籍、歴史につきましては教育出版、公民につきましては東京書籍、地図につきましては東京書籍、数学につきましては東京書籍、理科につきましては啓林館、音楽につきましては教育芸術社、美術につきましては光村図書、保健体育につきましては学研教育みらい、技術につきましては東京書籍、家庭につきましては東京書籍、英語につきましては光村図書に決定いたしました。

3 令和2年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 それでは次に議案第52号「令和2年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」審議をお願いいたします。

それでは、特別支援学級で使用する教科用図書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措

置に関する法律により、教育委員会が毎年こちらについては採択するものになると思いますが、詳しい説明を事務局の方からお願いいたします。

○教育指導課長 それでは、まず特別支援学級の教科書について全体像をご説明したいと思います。小学校、中学校ともに区で採択した教科書、このような検定本の中であれば下学年であっても使うことができます。つまり下の学年の教科書を。ですから、今回は小学校も中学校も採択しましたので、その中から特別支援学級はまず自由に選べる。さらに加えて文部科学省著作本と呼ばれていますが、いわゆる☆本という文部科学省がつくった特別支援学級の生徒のための教科書から選ぶ。さらに加えてお子さんたちの状況によっては一般に市販されている一般図書というものの中から教科書として採用することができるということになります。ただし、一般図書は毎年毎年新しい本が出たり、または絶版になってしまったり買えなくなったりということで、毎年毎年この一般図書についてのみ採択をしていただくこととなります。

したがって、令和2年度使用一般図書について、今回この一覧表の中にありますように、特別支援学級設置校長会、校長より、全39冊について教科用図書として適しているので使用したいというような申し出がございました。実際に東京都も調査をしたり文部科学省の一覧があったりする中で、その中から選ばれております。我々が見ても結果として採択にたえるものであるであろうということで考えておりますので、これらの採択についてご審議のほどをよろしくお願いいたします。

○教育長 ただいまの説明に対しまして、ご質問、ご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。

○田谷委員 特別学級の個々の生徒の現状はそれぞれの現場の先生方が一番よくご存じだと思います。その現場の先生方と校長先生が推薦されている図書ですので、これで承認してよろしいのではないかというふうに思っております。

○教育長 ほかによろしいでしょうか。

それでは採決に入ります。議案第52号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、議案第52号については原案どおり可決することに決定いたしました。

4 令和2年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 次に議案第53号「令和2年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」審議をお願いします。

中学校の特別支援学級で使用する教科用図書につきましても、小学校と同様に毎年採択することとなると思いますが、事務局からあわせて説明をお願いします。

○教育指導課長 採択の仕組みについては先程と同じになります。したがって、今回、中学校の特別支援学級設置校から提案されております一般図書は、この一覧のとおり9冊出てございます。先程も申しましたように文部科学省の一般図書一覧、並びに東京都のものも入っているものでござ

いますので、これについて採択についてご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○教育長 ただいまの説明に対しまして、ご質問、ご意見をお願ひいたします。

○田谷委員 先程の小学校の場合と同様に、やはり現場の事情、そういったことは現場の先生方が一番よくご存じだと思います。現場の先生並びに校長先生からのご推薦ですので、このまま承認するのがよいのではないかと考えております。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは採決に入ります。議案第53号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、議案第53号については原案どおり可決することに決定いたしました。

日程第2 教育長報告事項

1 東京2020テストイベント(トライアスロン)開催時のお台場学園港陽中学校屋内プールの提供について

○教育長 日程第2、教育長報告事項に入ります。「東京2020テストイベント(トライアスロン)開催時のお台場学園港陽中学校屋内プールの提供について」説明をお願いします。

○生涯学習スポーツ振興課長 それでは教育委員会報告資料ナンバー1に基づきましてご報告いたします。「東京2020テストイベント(トライアスロン)開催時のお台場学園港陽中学校屋内プールの提供について」ご報告いたします。

本年はオリンピックの前年であることから各競技が本番を想定してのテストイベントを実施しております。港区で開催されるトライアスロンのテストイベントについては8月15日から18日に開催されます。これに先立ちまして練習場所としてお台場学園港陽中学校の屋内プールを利用させて頂きたいということで、BOA、イギリスオリンピック委員会とOQE、ITUワールドトライアスロンオリンピッククオリフィケーションイベント実行委員会から申し出を受けました。

テストイベントはオリンピック・パラリンピックの本大会の成功に向けて大変重要な位置づけとされていることから、BOAとOQEに対し、お台場学園港陽中学校屋内プールを提供し、提供に当たって使用料及び光熱水費を免除することとしたいと考えております。

簡単に項番1の「経緯」ですが、区は東京2020オリンピック期間中にBOAに対しまして、お台場学園をスポーツ・サービス・センターとして提供することについて、平成30年12月3日に契約を締結しました。契約締結後、BOAの方からテストイベント開催時も練習場所としてお台場学園港陽中学校屋内プールを使用したいと申し出がございました。その後、4月ごろに今度は大会の実行委員会の方からも同様の相談があったために、先にBOAの方からの相談を受けていた経緯もございますことから、BOAとOQE双方で調整を行ってもらい使用時間の合意に至ったものです。

項番2の(1)「提供する施設」については、お台場学園港陽中学校屋内プール、地下1階にございます。こちらを提供いたします。

「用途」はテストイベントに出場する選手の練習、コンディション調整の場としてとなります。

次に「提供期間」です。おめくりいただきますと別紙1になるのですが、テストイベントの日程は8月15日から18日ですが、練習場所として提供いたしますのは8月11日から8月19日にまでになります。19日についてなのですが、18日で大会が終了するのですが、19日になぜ提供するかと申しますと、この大会の直後にスイスの方で国際大会が、同様のものが行われるということから、コンディション調整のために選手のために使わせてほしいという申し出がございました。こういったことから19日も提供するというようにいたしております。

「費用負担」につきましては、平成29年に「東京2020大会の開催に伴う区施設提供に当たっての基準等について」というのが示されました。この基準において、区民等が参加可能なスポーツイベントやオリンピック・パラリンピック選手等との国際交流の機会を設けることというのが提供の基準として示されております。同時に、光熱水費、使用料の免除についても同様の形で、出場選手と区民との交流が行われるということであれば免除ということが規定されておりますので、これに基づきまして光熱水費、使用料については免除をしたいと考えております。

なお、この件につきまして7月29日に開催されました港区公有財産管理運用委員会へも付議し、許可されております。ただし、学校入り口の開錠施錠等の経費はBOA及びOQEが負担しますと資料には記載しておりますが、今のところ学校施錠についてはもともと工事対応等で学校を開ける開錠施錠の業務がシルバー人材センターの方で予定されていたので、これについて特別の経費はBOAやOQEに対して請求することはないのですが、更衣室の利用等で清掃等が発生する可能性があるため、この点については委託の業者の方から請求してもらうことにしております。

最後に「区民への周知」です。交流機会はいくつかもう既に設けることになっておりまして、これについては地域住民、特にお台場学園の小中学生には既に周知しておりますし、お台場児童館の子どもたちにも参加を呼び掛けているということで、区民への周知は広く行っているところです。

説明は以上です。

○教育長 ただいまの説明に対して、ご質問をお願いいたします。

ちょっと重要な点なのだけれども、交流の方は周知していますよということなのだけれども、ここに書いてあるとおり、プールが使えませんよということももう既に周知してあるということではないですか。

○生涯学習スポーツ振興課長 学校プール開放については、学校プール開放をしているところはどこもそうなのだけれども、当該月、例えば8月の利用に関しては7月末にホームページでの周知及びチラシの方で呼び掛けているので、お台場学園のプールが使えないということについては既に周知済みです。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、この報告事項は以上とさせていただきます。

日程第1 審議事項

5 港区立幼稚園教育職員の人事について

○教育長 それでは、これより非公開の審議に入ります。

(非公開審議)

「閉会」

○教育長 本日予定している案件は全て終了しましたが、委員または説明員からそのほか何かありますでしょうか。

なければ、これをもちまして閉会といたします。

次回は臨時会を8月27日火曜日午前10時から開催の予定です。よろしくお願いいたします。

長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございました。

(午後13時42分)

会議録署名人

港区教育委員会教育長 青木 康平

港区教育委員会委員 中村 博